# 地域づくり

本編

2025
5
ISSN1340-8917

明日を開く、地域活性化のための情報誌



特集　第29回ふるさとイベント大賞

本誌は、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです

地域づくり　2025-5

CONTENTS

1　巻頭エッセー／震災からの14年　～福島復興の現在地～　内堀雅雄（福島県知事）

特集　第29回 ふるさとイベント大賞

第29回ふるさとイベント大賞表彰式・2025地方創生フォーラム in 東京を開催　2
大賞（内閣総理大臣賞）〈1団体〉　●福知山イル未来と【京都府福知山市】　4
最優秀賞（総務大臣表彰）〈1団体〉　●真夏のとうもろこし巨大迷路ゴールドデント777WAKUYA2023【宮城県涌谷町】　6
優秀賞〈3団体〉　●カナガワ　リ・古典プロジェクト in 海老名【神奈川県】　8
●たけはら憧憬の路 ～町並み竹灯り～【広島県竹原市】　10
●川内大綱引【鹿児島県薩摩川内市】　12
ふるさとキラリ賞〈2団体〉　●全国だるまさんがころんだ選手権大会【奈良県王寺町】　14
●ホタルと花と砂留と【広島県福山市】　16
選考委員特別賞〈1団体〉　●狭山池まつり2024【大阪府大阪狭山市】　18

## 【特集編では大賞・最優秀賞など計8表彰に加え、次点となった以下のイベントも紹介】

●次点

岩見沢ねぶた祭2023【北海道岩見沢市】
おながわみなと祭り【宮城県女川町】
只見ふるさとの雪まつり【福島県只見町】
箕輪城まつり【群馬県高崎市】
第34回越後まつだい冬の陣【新潟県十日町市】
第39回夏祭り山形じゃんずら【長野県山形村】
下町芸術祭【兵庫県神戸市】
嬉野暮らし観光まちあるき【佐賀県嬉野市】
ジャパンデー、アメリカンデー【青森県三沢市】
第11回全国まるごとうどんEXPO2023 in 秋田・湯沢【秋田県湯沢市】
城下町小幡さくら祭り「武者行列」【群馬県甘楽町】
ドリーム夜さ来い祭り【東京都】
しばた寺びらき【新潟県新発田市】
つちのこフェスタ【岐阜県東白川村】
矢掛の宿場まつり大名行列【岡山県矢掛町】
青島神社夏祭り　海を渡る祭礼【宮崎県宮崎市】

レギュラーリポート

20　トピックス
「人材育成基本条例」制定を

22　移住・定住・交流推進支援事業　茨城県下妻市
子どもの遊び空間魅力化で地方創生
青木大輔

24　首長の思い
世界一健康づくりの楽しい室戸の創造へ挑戦
植田壯一郎（高知県室戸市長）

グラビア
手前みそですが…　【大分県豊後高田市】

**お知らせ**　「地域づくり」はこれまで「本編」「特集編」の2冊を発行してきましたが、次号（6月号）から1冊に統合します。テーマを定めた「特集」を中心とした編集方針は変わらず、オールカラーで標準40ページとなります。引き続きご愛読のほど、お願い申し上げます。

## 表紙　白川湖の水没林

豪雪地帯、山形県南部飯豊町（いいでまち）の白川湖で春の2カ月間だけ見ることができる神秘的な風景。

日本百名山の飯豊連峰から、春にはダム湖である白川湖に大量の雪解け水が流れ込みます。湖が満水を迎えると、シロヤナギの木々があたかも水の中から生えているかのような、幻想的な光景になります。5月下旬ころから雪解け水が減り、下流の水田での田植えが始まりだすと徐々に湖の水位が下がり、「水没林」は「林」の姿に戻ります。

白川湖の水没林は、ダム完成後、長い間この場所に存在していたはずですが、SNSやマスメディアで取り上げられることにより、ここ最近、急激に注目を浴びるようになりました。また、湖周辺のフィールド整備や渋滞対策などサステナブルな取り組みと観光消費額拡大の両立が評価され、観光庁・文化庁・スポーツ庁が連携して主催する「スポーツ文化ツーリズムアワード2024」に選出され、ますます注目を浴びるスポットとなっています。

問い合わせ先＝飯豊町商工観光課観光交流室　電話0238（87）0523
（写真提供＝飯豊町）



水没林を眺めながらのカヌー

ESSAY

巻頭エッセー

# 震災からの14年

## ～福島復興の現在地～



福島県知事 ● 内堀　雅雄

東日本大震災と原発事故から14年が経過しました。この間、福島に心を寄せてくださる皆さんから温かいご支援を頂き、福島の復興は着実に前進しておりますことに心から感謝を申し上げ、福島の今についてお伝えします。

一つ目は、福島の復興の状況です。まだまだ光と影が混在しており復興は途上です。まず、復興の影、原子力災害によって思うように進まない福島県特有の課題は、今なお山積しております。いまだ約2万5000人の方が避難生活を続けておられます。廃炉・汚染水・処理水の対策は長期を要します。放射能への不安に伴う風評は根強く、福島県が抱える課題への風化や関心の低下が時間の経過とともに進んでいます。

一方、復興の光も大きくなっています。放射線の空間線量率が世界の主要都市と同水準まで低下しました。生活インフラも確保され、徐々に帰還・移住が進んでいます。県産品の輸出額やホープツーリズムの参加件数が過去最高を更新しています。産業面では、福島イノベーション・コースト構想によりロボット実証拠点（福島ロボットテストフィールド）や大規模水素製造実証拠点（福島水素エネルギー研究フィールド〈FH2R〉）が設置されたほか、一昨年には福島国際研究教育機構（F-REI）が設立されるなど、研究開発の進展と県内産業への波及が期待されます。

これからも、影を小さくし光を大きくする取り組みを、国内外の皆さんのお力をお借りし、前へと進めてまいります。

二つ目は、福島の地域づくりです。福島県は「過疎・中山間地域振興戦略」を策定し、県土の約8割を占める過疎・中山間地域の「持続可能な里・山社会の実現」を目標に施策を展開しております。

その一つが大学生と集落の協働による地域活性化の取り組みです。15年間で、のべ96の大学生グループ・約2300人の大学生に参加いただきました。

大学生たちが実際に集落に入り、若者の視点や感性を生かして地域資源を掘り起こし、集落の方々と協働して知恵と工夫を出し合い、振興策を磨き上げる実践的な取り組みです。大学生や集落の方から「新たな特産品の開発ができた」「地元の当たり前が『地域の宝』だと気付いた」といった声が寄せられています。さらに、事業の終了後においても、集落に移住して大学生を受け入れたり、地域おこし協力隊になって活躍したりする卒業生もいます。

これからも、人の流れを大きくしながら愛着や誇りの醸成を進め、持続可能で魅力ある地域づくりを推進してまいります。

三つ目は、福島の魅力です。とりわけ食の魅力では、浜通り、中通り、会津と気候や風土に特徴がある本県だからこそ、県の誇りである日本酒はもとより、個性豊かでおいしい食材や豊かな食文化があります。

そのような福島県を舞台に、令和8年春には「ふくしまディスティネーションキャンペーン（ふくしまDC）」が催され、今年は「プレDC」を県内各地で展開します。全国の皆さん、ぜひ、来て、見て、味わってください。

また、浜通りにはサッカーの聖地Jヴィレッジがあります。ここをメイン会場として、昨年度から本県でインターハイ男子サッカーが固定開催されております。また、今年11月には、耳の聞こえないアスリートのオリンピック「デフリンピック」のサッカー競技が開催されます。大人数でも宿泊できるホテルも併設されておりますので、こうした機会にぜひJヴィレッジにお越しください。

「夢は見るものではありません。夢はつかむものです」

これは、昨年10月に亡くなられた福島県出身の俳優、西田敏行さんが、震災後、福島の子どもたちに贈られたメッセージです。西田さんが心から愛したふるさと福島の復興。全ての県民の願いでもあるこの〝夢〟を必ずこの手でつかみ取るため、「ふくしまプライド。」を胸に、県民の皆さんや、福島に心を寄せてくださる皆さんと共に力を合わせ、全力で挑戦を続けてまいります。今後も一層の御支援と御協力をお願い申し上げます。

# 第29回ふるさとイベント大賞表彰式・2025地方創生フォーラム in 東京を開催

地域活性化センターは、2025年2月20日(木)にルポール麹町で「第29回ふるさとイベント大賞表彰式」と「2025地方創生フォーラムin東京」を開催しました。当日は表彰式の様子や講師の講演などをユーチューブで同時配信し、多くの方にご視聴いただきました。

**■プログラム**

11：00～　第29回ふるさとイベント大賞表彰式

13：30～　2025地方創生フォーラムin東京

【テ　ー　マ】「地元の出会いは企業がつくる　オールニッポンの少子化対策とは」

【基 調 講 演】天野 馨南子 氏（株式会社ニッセイ基礎研究所 生活研究部人口動態シニアリサーチャー）

【事例発表①】清水 繁 氏（東京商工会議所 地域振興部部長）

【事例発表②】佐藤 修哉 氏（株式会社佐藤製作所 常務取締役）

【パネルディスカッション】

（モデレーター）　荒木 直美 氏（婚活コーディネーター）

（パ ネ リ ス ト）　清水 繁 氏、佐藤 修哉 氏、浦 亮治 氏（長崎県こども政策局局長）

（コメンテーター）　天野 馨南子 氏



表彰式の記念写真




地方創生フォーラム in 東京の様子



大賞を受賞した「福知山イル未来と」の皆さん

# 第29回ふるさとイベント大賞の概要

「ふるさとイベント大賞」は、全国各地で数多く開催されている地域の活力を生み出すイベントを表彰し、全国に向けて紹介することによって、ふるさとイベントのさらなる発展を応援することを目的に設けられた賞です。

今回で29回目を迎え、第28回までに、211の個性豊かなイベントを表彰しています。

今後も、ふるさとイベントの創造・発展を促すことで、地域固有の風土・伝統・暮らしを守るとともに、地域に対する愛着と誇りを育み、内外との交流につながる地域の活性化を目指しています。

## ●応募対象イベント

2023年7月1日から2024年6月30日までに市区町村（広域を含む）で開催されたイベント。

※オンライン開催も対象。また、規模の縮小や内容の変更などがある場合でも、イベントを継続することで、そのイベントが本来持つ意味を伝えようと創意工夫を凝らしているものも含む。

以下のいずれかに該当するイベントは対象外。

①直近の5回（第24～28回）に大賞、最優秀賞等各賞を受賞したイベント

②継続性がなく1回の開催のみで終了するイベント

## ●選考過程

イベント主催団体から、市区町村等を通じ、都道府県へ応募書類を提出していただきました。今回の応募総数は101件でした。

応募されたイベントについては、イベントプロデューサーや学識経験者等により構成される「第29回ふるさとイベント大賞選考委員会」において厳正な審査を行い、受賞イベントを決定しました。

なお、選考にあたり、右記の選考基準を基にイベント内容を総合的に判断しました。

## ●選考基準

| | 評価のポイント |
|---|---|
| 企画 | ・地域資源を積極的に活用している。<br>（地域資源：風土、産業、食文化、伝統文化、歴史、特産物、建築物・構造物など）<br>・独創性にあふれ、新たな地域の魅力を創り出している。<br>・多くの人を引き付ける魅力がある。<br>・魅力を増すための創意工夫が顕著である。 |
| 運営 | ・地域住民が積極的に参加している（参加することに誇りを持っている）。<br>・地域の内外を問わず、交流や連携が行われている。<br>・継続して開催されており（継続される見込みがあり）、将来の発展性が見られる。 |
| 効果 | ・地場産業の振興や観光客誘致など、経済的な波及効果がある。<br>（低予算でも波及効果が大きいなど）<br>・地域の知名度アップに貢献している。<br>・地域住民の郷土意識の高揚につながっている。<br>・伝統文化の継承や新しい文化の創造につながっている。 |

## 選考委員長の総評　北川 フラム氏（株式会社アートフロントギャラリー代表取締役／アートディレクター）




「ふるさとイベント大賞」第29回の今回は、古くからの地域資源を契機にした優れたイベントが多いのが特徴でした。

「福知山イル未来と」は福知山城の夜を、「カナガワ　リ・古典プロジェクトin海老名」は県ゆかりの伝統文化を新しい発想で活用し、「たけはら憧憬の路～町並み竹灯り～」はタイトルどおりの内容で、福山市の「ホタルと花と砂留と」は堂々川という大切な川とその保全のための「砂留」をテーマにしており、また「川内大綱引」に至っては戦国時代から425年も続いている国の無形文化遺産に指定されている行事です。「狭山池祭り2024」は行基、重源以来の大切なため池を寿（ことほ）ぐお祭りで、これも日本列島に特徴的な土木インフラをテーマにしています。宮城県涌谷町の「真夏のとうもろこし巨大迷路ゴールドデント777WAKUYA2023」や奈良県王寺町の「全国だるまさんがころんだ選手権大会」も土地に根ざしたもので、私たちのこの日本列島の固有の場を深く掘り考えてきたものが大切にされていることをうれしく思いました。


**問い合わせ先**

一般財団法人　地域活性化センター
地域創生・情報広報グループ地域創生課

〒103-0027 東京都中央区日本橋2-3-4
日本橋プラザビル13階

TEL 03-5202-6136　FAX 03-5202-0755
E-mail：event@jcrd.jp　HP：https://www.jcrd.jp/




大賞　内閣総理大臣賞

**福知山イル未来と**

【開催場所】京都府福知山市・福知山城を中心とした城下町エリア




## 評価のポイント

●地域資源である「福知山城」を、光のプロジェクトだけでなく多様な形で活用しているユニークなイベント。行政を巻き込んで発展している点も将来の可能性を感じる。
●地元アーティストや大学生といった若い世代の発想で作り上げたイベントで、個々の作品の完成度が高い。フォトスポットとしてインスタで拡散されるなどして、若い世代への訴求が期待できる。
●プロジェクトマッピングやホラーキャッスルなどイベントも多彩で、未来に向けて変容しながら続くイベントになるのではないか。

**次回開催日程**

■開 催 日：2025年秋
■開催場所：福知山城を中心とした城下町エリア
■問い合わせ先
・団 体 名　福知山イル未来と実行委員会
・住　　所　〒620-0036　京都府福知山市中ノ27（2025年の事務局が変更になる場合あり）
・電話番号　090-5667-6119

大賞

第29回
ふるさとイベント大賞

内閣総理大臣賞

# 福知山イル未来と

「福知山イル未来と」事業は、地域の誇れる資源を活用し魅力を高めるための事業を創り出すという想いをもって（一社）福知山青年会議所が主体となり立ち上がりました。開催場所となっている「福知山城」は地域のシンボルであり京都府内で唯一の天守閣を残す城であります。しかし、地域に住む住民にとって当たり前に存在する場所であり、普段の生活で近づく理由のない場所となり、平日や、夜間は観光客がいないと薄暗く近寄りがたい場所となっていました。

当初は青年会議所が主体となり、福知山城をよりカッコよくできる方法は何かという視点で、石垣のライトアップや天守閣のライトアップの変更や追加を行いながら、夜だからこそ見ることができるプロジェクションマッピングや光と影の演出、夜の雰囲気にマッチする音楽演出など様々な取り組みを巻き込んでいきました。青年会議所が主体だった事業も、福知山市や他団体、学生が実行委員会に加わるようになり、さらには広域観光圏としてのDMOや、京都府も実行委員会や広報協力として連携が広がり始めます。また2021年からは文化財×ナイトコンテンツ&デジタルコンテンツを現代アートとしての視点で事業構築し、文化財や地域活動の手法に新しい視点を加えた展開となりました。

2023年の事業では地元地域で活動される竹を活用したアーティストによる竹灯りや流木アート、おりんによる音楽アートなどを福知山城周辺で一堂に展示しました。にぎわいの演出には地元商工会議所青年部の力も借り、ハロウィンイベントやお城を初めて活用したお化け屋敷は地域内でも小中学生を中心に話題となり、多くの来場につながりました。一つの団体だけではなく、地域のシンボルを地域のみんなで活用していきたいという想いがつながり発展を続ける「福知山イル未来と」は、新しい挑戦と可能性を秘めた事業となっています。

## 主催者メッセージ



福知山城は、麓から見上げる姿や転用石の石垣から、当時の時代背景を垣間見ることができます。本事業を通じて一部のライトアップは常設化することができました。夜のライトアップによる石垣やお城の姿は必見です。お城を中心とした地域の挑戦が集まるまちづくりをイベントだけではなく、ぜひご注目下さい。

福知山イル未来と実行委員会
委員長
**足立 聖忠**さん

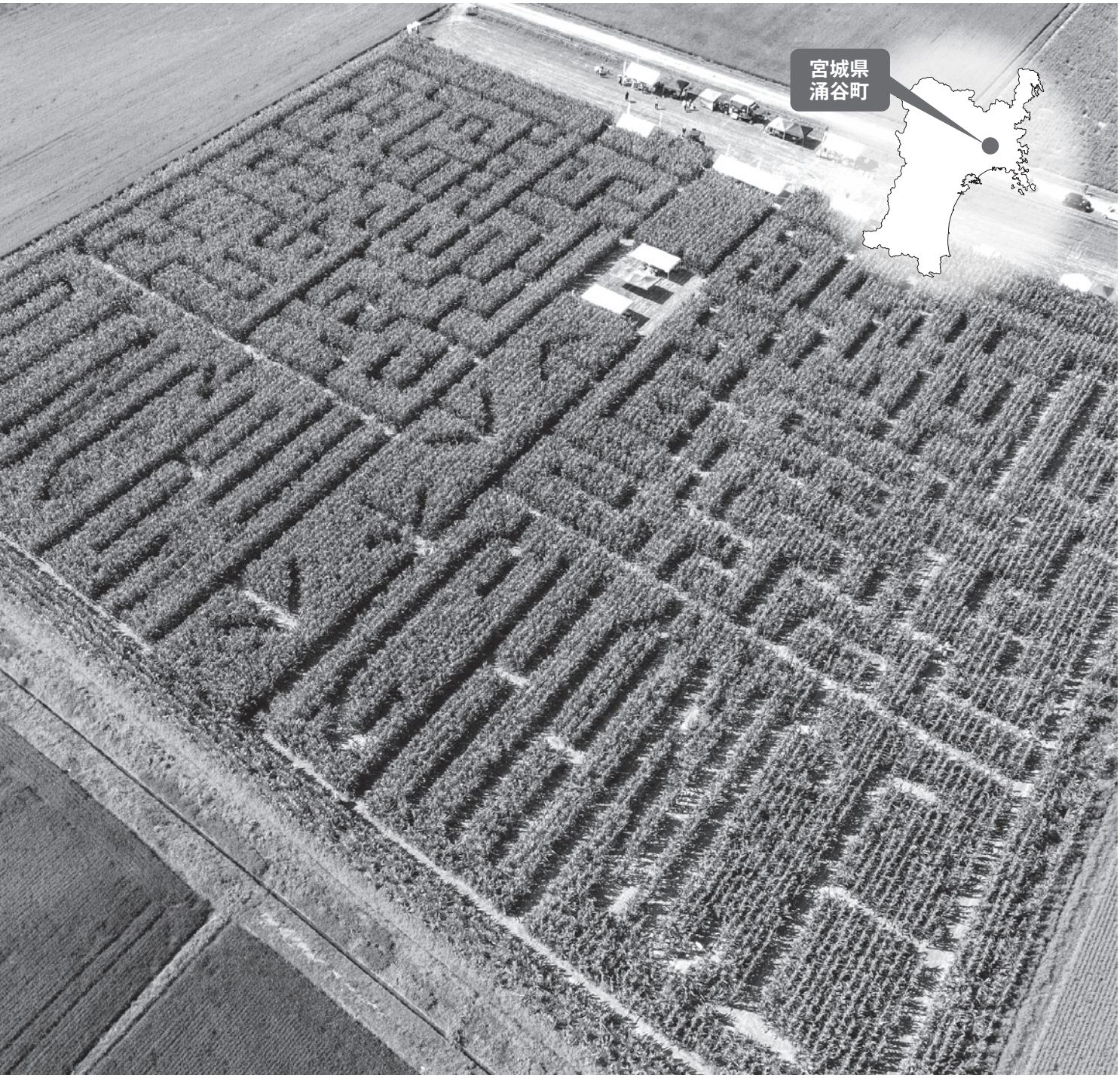






## 開催DATA

| | |
|---|---|
| 自治体名 | 京都府福知山市 |
| 自治体人口 | 74,513人<br>※2024年12月末現在の住民基本台帳人口 |
| 主催団体 | 福知山イル未来と実行委員会 |
| 開催回数 | 7回 |
| 開催日 | 9~11月の複数日 |
| 開催場所 | 福知山城を中心とした<br>城下町エリア |
| 観客数 | 18,501人（2023年） |




## 評価のポイント

●酪農家が発起人となり、広大な飼料用とうもろこし畑を活用して巨大迷路を造っているのが特長。酪農家による手作りのイベントが酪農家支援・牛乳消費拡大にもつながっている。
●運営費用を補助金に頼らずクラウドファンディング、寄付、参加料などで賄っている。関係者の強い熱意や参加者のニーズを捉えたイベントであることの表れであり、今後も期待できる。
●地場産品の販売等の経済効果を生み出したり、イベント運営に携わる地元の若者たちの交流機会につながったりと様々な波及効果を生み出している。

**次回開催日程**

■開 催 日：2025年8月2、3日
■開催場所：涌谷町涌谷字富沢地内のほ場
■問い合わせ先
・団 体 名　涌谷デントコーン迷路実行委員会
・住　　所　〒987-0151　宮城県涌谷町小塚字笠石山56番地（株式会社さいとう農場内）
・電話番号　090-8050-9786　・URL　https://www.facebook.com/golddent777wakuya/

最優秀賞

第29回
ふるさとイベント大賞

総務大臣表彰

# 真夏のとうもろこし 巨大迷路ゴールドデント 777WAKUYA2023

宮城県涌谷町は、749年（天平21年）に日本で初めて金を産出し、当時、平城京で聖武天皇によって造営が進められていた東大寺の大仏さまの鍍金用の金として献納し、その完成へと導いた地です。

イベント名は、日本初の産金地としての歴史と、迷路を形作る飼料用とうもろこしデントコーンの品種「ゴールドデント777」に由来するものです。

本イベントは、コロナ禍真っただ中の2021年に、もともとデントコーンを栽培していた酪農家を中心に、農家や地域おこし協力隊、行政職員の有志が実行委員会を発足し、始まりました。全国的にイベントが中止となり、子どもたちの思い出づくりの場が失われ続けている中、広大な農地であれば、感染症に気を遣わず、イベントを開催できるのではないかと考え、約1ヘクタールの田んぼにデントコーンを栽培し、約3メートルまで成長したデントコーン畑の中を切り開いて迷路を作り、イベント後には、デントコーンを収穫し、最終的には乳牛の飼料とする循環型農業を基本としたイベントを企画しました。

2021年の初開催では、コロナ禍の夏休みの思い出づくりに家族連れが1500人来場しました。2022年開催では、約1.8ヘクタールにスケールアップし、涌谷町にちなんだクイズラリーコースとゴールタイムを競い合うタイムアタックコースの2コースを整備し、2500人が来場。3回目となる2023年開催では、酪農家支援・牛乳消費拡大としてパック牛乳2000本を配布したほか、猛暑対策として迷路内に隠された宝探しをする肝試し要素も含んだナイト迷路を新たに企画したことで過去に類を見ない猛暑にもかかわらず2200人が来場し、コロナ禍をしばし忘れ、子どもも大人も熱中しました。

イベントの運営には、実行委員のほかに、町内の農業や商工業の担い手、地域のサークル・団体、行政の若手、高校生ボランティアが携わり、親睦を深める機会ともなっています。

コロナ禍を機に誕生したイベントですが、農作物を作るだけではない持続可能で循環型農業の新たな可能性に挑みつつ、涌谷町の新たな夏の風物詩となることを目指しています。

## 主催者メッセージ



日本で初めて金を産出した涌谷町の広大な農地を利用し、そこで栽培する高さ3メートルのデントコーン畑を切り開いた約1.8ヘクタールに及ぶ東北最大級の迷路イベントです。開催当初のマスク越しでも分かる、迷路のあちこちで咲き誇る夏の太陽にも負けないくらい黄金に輝く子どもたちの笑顔が印象的でした。

涌谷デントコーン迷路実行委員会
実行委員長
**齋藤 常浩**さん









### 開催DATA

| | |
|---|---|
| 自治体名 | 宮城県涌谷町 |
| 自治体人口 | 14,249人<br>※2024年12月末の住民基本台帳人口 |
| 主催団体 | 涌谷デントコーン迷路実行委員会 |
| 開催回数 | 4回<br>（2024年8月3、4日開催分含む） |
| 開催日 | 2023年7月29、30日 |
| 開催場所 | 涌谷町涌谷字富沢地内のほ場 |
| 観客数 | 約2,200人<br>（2024年開催は3,200人） |




## 評価のポイント

●地元高校生の創作ダンスと民俗芸能団体の共演により、地域住民や観光客に伝統文化を現代的な視点で再発信するなど、伝統文化の継承や新しい文化の創造につながっている。
●700年の歴史を持つ「山北のお峰入り」の維持継承が大切に引き継がれ、舞踊を通して老若男女の多彩な参加者の生き生きとした表情、姿がとても魅力的な取り組み。
●県西部の伝統的な地域資源を広く周知し、誘客のきっかけとする好事例。県内の小中高生や大学などへのPRも進めてほしい。

**次回開催日程**

■開 催 日：2025年12月（予定）
■開催場所：神奈川県横須賀市内（予定）
■問い合わせ先
・団 体 名　かながわの伝統文化の継承と創造プロジェクト実行委員会
・住　　所　〒231-8588　神奈川県横浜市中区日本大通１　神奈川県文化スポーツ観光局文化課内
・電話番号　045-285-0219　・URL　https://www.pref.kanagawa.jp/docs/yi4/rekoten/top.html

優秀賞

第29回
ふるさとイベント大賞

地域活性化センター会長表彰

# カナガワ リ・古典プロジェクト in 海老名

「カナガワ　リ・古典プロジェクト」は、神奈川県ゆかりの伝統文化を新しい発想で活用し、現代を生きる文化芸術として再（Re・リ）発信する取り組みとして、県、市町村、地域の企業や住民等との協働により、2013年度から県内各地で毎年イベントを開催しています。

2023年度は、神奈川県が誇る地域資源であり、風流踊としてユネスコ無形文化遺産に登録された民俗芸能「山北のお峰入り」を34年ぶりに地元以外の場所で大規模に一般公開しました。「お峰入り」とは、山中で修行を行うことを意味し、修験道の儀礼が芸能化したものと考えられています。イベントは、県央地域の主要駅である海老名駅の自由通路で太鼓や笛の音とともに古式ゆかしい行列を披露した後、ホールに会場を移し、海老名市の住民が演じる「大谷歌舞伎」、湯河原町の祭礼で舞われる「吉浜の鹿島踊」といった県内各地の民俗芸能と舞台で共演し、来場者に神奈川の芸能の多彩な魅力を一体的に発信しました。

また、こうした民俗芸能を披露するだけでなく、継承を担う地域住民が自ら講師となってワークショップ等を行い、子どもを中心とした伝統文化にあまり触れたことのない方々の興味関心を喚起したほか、舞台公演では地元高校生の創作ダンスも共演し、新たな文化を創造する試みとなりました。

今回は、100名以上の山北町民スタッフが遠方から参加するなど、県内各地の民俗芸能を担う住民が集合し、他団体や来場者と交流しましたが、大都市と山間部の両方を併せ持つ神奈川県において、本イベントは相互の交流による伝統文化の継承の取り組みを進める上での成功事例となり、翌年度以降の事業の企画に生かされています（2024年度は横浜市鶴見区と川崎市を会場に、県内にある総本山・大本山寺院の声明（しょうみょう）や川崎に伝わる民俗芸能、神奈川にゆかりのある世界各国の獅子舞等が登場するイベントを開催し、大きな盛り上がりを見せました）。

## 主催者メッセージ



神奈川県は、西に丹沢や箱根の山々、南に湘南の海、東に美しい夜景が広がる都市部など、エリアごとに異なる表情があり、見どころが豊富です。また、県内各地で受け継がれてきた歌や踊り、人形芝居などの多彩な芸能も楽しめます。神奈川県にお越しの際は、ぜひ人々の暮らしに息づく伝統文化に触れ、その魅力を堪能してください。

かながわの伝統文化の継承と創造プロジェクト実行委員会
実行委員長
**小熊 誠**さん









### 開催DATA

| | |
|---|---|
| 自治体名 | 神奈川県 |
| 自治体人口 | 9,208,688人<br>※2024年1月1日現在の住民基本台帳人口 |
| 主催団体 | かながわの伝統文化の継承と創造プロジェクト実行委員会 |
| 開催回数 | 11回（2023年度時点） |
| 開催日 | 2024年2月11日 |
| 開催場所 | 海老名市文化会館、海老名駅自由通路等 |
| 観客数 | 約2,800人 |




## 評価のポイント

●従来の竹灯りの魅力に加え、白壁へのプロジェクションマッピングやSNSを活用したフォトコンテストなど魅力の向上や集客の増加に向けた創意工夫に取り組んでいる。
●安芸の小京都と呼ばれる町並みの景観を、竹原の竹を用いた灯りで照らすという、地元の魅力を最大限に生かしたイベント。惹句（じゃっく）のとおり、夢のように美しいのだろうと想像する。
●伝建地区にも指定された町並み一帯に、竹灯りを展開して、竹原市ならではの幻想的な景観を生み出すことに成功している。

**次回開催日程**

■開 催 日：2025年10月25、26日
■開催場所：たけはら町並み保存地区
■問い合わせ先
・団 体 名　竹原市役所産業振興課商工観光振興係
・住　　所　〒725-8666　広島県竹原市中央五丁目6番28号
・電話番号　0846-22-7745

優秀賞

第29回
ふるさとイベント大賞

地域活性化センター会長表彰

# たけはら憧憬の路（しょうけいのみち）～町並み竹灯り（あかり）～

竹原市は、広島県沿岸部のほぼ中央に位置し、瀬戸内海の豊かな自然と温暖な気候に恵まれ、空港や新幹線、高速道路など主要な交通体系へのアクセスも良い住みやすいまちです。江戸時代から310年間塩づくりで栄え、その当時から今も残る歴史情緒あふれる古い建物群は、「たけはら町並み保存地区」と呼ばれ、国の重要伝統的建造物群保存地区にも選定されており、映画CM、アニメの舞台としてもたびたび使用されております。

竹原市を代表する「たけはら憧憬の路」は、この「たけはら町並み保存地区」で行う市木の竹を使った夜のイベントで、2003年（平成15年）に始まりました。「住んでよし・訪れてよし」のにぎわいのまちづくり・人づくりを推進することを目的に、竹原市や商工会議所をはじめ、地域の自治会や商店街など、13団体で実行委員会を構成し、地域一体となったイベント運営を行っております。

毎年10月の最終土曜・日曜日の2日間で開催するイベントには、県内外から約3万人が集まり、近年では遠く海外の方にも訪れていただいております。

イベントの魅力は何と言っても、江戸時代の面影を今も残す「たけはら町並み保存地区」が約5000本の竹筒からあふれるろうそくの灯りで幻想的に彩られる光景です。ノスタルジックな町並みと柔らかな竹灯りのコラボレーションは、筆舌に尽くし難い美しさです。

その他、地域の団体により製作された竹オブジェも趣向が凝らされており、各エリアでは雰囲気にあったライブイベントやおいしい地元グルメなども楽しめます。

お越しいただいた方々にイベントを楽しんでいただき、竹原市の魅力を最大限感じていただくため、実行委員会では会議を重ねて様々な企画を考えております。

保存地区全体が光のアートとなる2日間、心落ち着く幻想的な秋の夜長を竹原市で楽しんでみてはいかがでしょうか。

## 主催者メッセージ



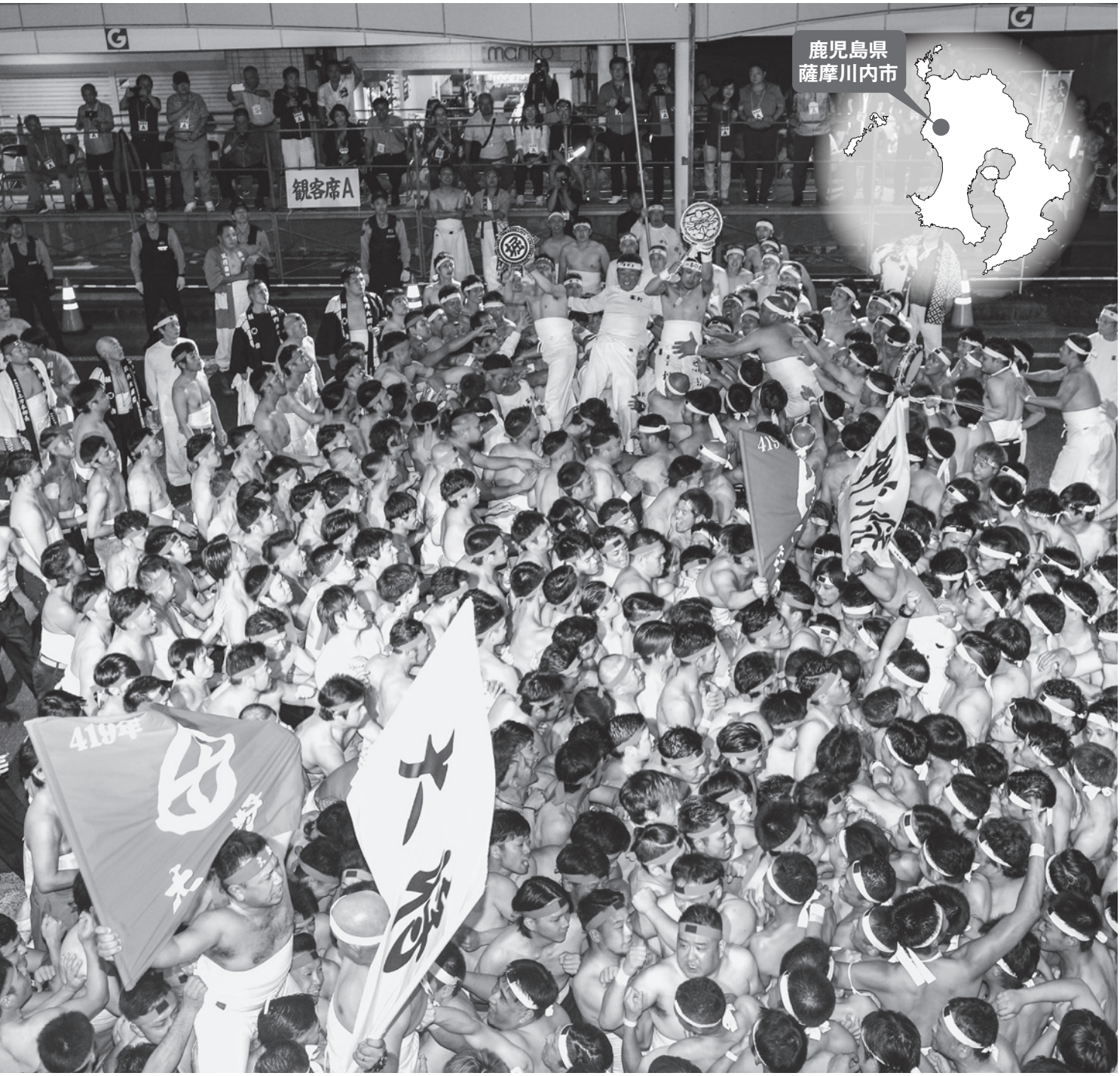
たけはら憧憬の路実行委員会
委員長・竹原市産業振興課長
**松岡 俊宏**さん

「たけはら憧憬の路」は、新型コロナウイルス感染症の影響で2年間の中止を余儀なくされましたが、2024年（令和6年）には、無事20回目の節目を迎えることができました。これもひとえに、市民と行政が一体となってイベントを開催してきたからであり、これからも地域一体となった運営をすることに重きを置き、竹原が誇るイベントとして後世に承継していきたいです。



## 開催DATA

| | |
|---|---|
| 自治体名 | 広島県竹原市 |
| 自治体人口 | 22,557人<br>※2024年12月末現在の住民基本台帳人口 |
| 主催団体 | たけはら憧憬の路実行委員会 |
| 開催回数 | 20回 |
| 開催日 | 毎年10月最終土曜、日曜日 |
| 開催場所 | たけはら町並み保存地区 |
| 観客数 | 25,000人 |




## 評価のポイント

●コロナ禍による中止期間中も綱練りのみ行うなど、技術や伝統を絶やさない取り組みが評価できる。また、幅広い世代が関わる機会を持つことができ、地域住民の郷土意識の高揚につながっている。
●子どもの頃から多くの地域住民が積極的に参加していることも評価できる。大綱引という強烈なインパクトを生かし、市外からも集客し、大きな経済効果を上げている。
●綱練りの技術の伝承はこの行事でも大切な取り組みであり、1500人の参加者数が大綱引の保存会の皆さんの熱量を感じさせる。

**次回開催日程**

■開 催 日：令和7年9月22日　※予定
■開催場所：薩摩川内市大小路地区（国道3号）※予定
■問い合わせ先
・団 体 名　川内大綱引保存会
・住　　所　〒895-0024　鹿児島県薩摩川内市鳥追町15
・電話番号　0996-21-1851　・Mail　ootsunahiki-hozonkai@kou.bbiq.jp

優秀賞

第29回
ふるさとイベント大賞

地域活性化センター会長表彰

# 川内大綱引

長い歴史を誇る「川内大綱引」の起源は、慶長年間（1596～1615年）にあると伝えられています。当時、薩摩藩の「郷中教育」において「8月15日夜に青年の監督の下に稚児一同綱引きを催す」と記されたことから、藩内各地で綱引きが広く行われました。

明治大正の頃には朝まで行われるほどで、時代に合わせた変化をしながら続けられてきました。大戦中の中止時期もありましたが、昭和22年に「平和は川内名物の大綱から」と復活させ、現在まで継承されています。

高度成長期には若者は県外に職を求め、主催する商店街にも人手不足等の影響が出始めました。昭和60年に川内大綱引を安定した運営にするために「川内大綱引保存会」を組織し、商工観光の振興や青少年の健全育成を目的としました。

「川内大綱引」には他に類を見ない、言葉で表すには難しい複雑なルールがあります。上方（赤）と下方（白）に分かれて作戦本部を設置する前から、両本部は人数集めに制限がない「引き隊」の引き手集めに奔走します。引き隊前の綱の中央部に配置される「押し隊」は、肉弾攻撃をもって敵軍の体制を崩すことを目的としています。

綱の両末端は“ワサ”という輪になっており、自軍の形勢が不利になった際、「ワサ係」が中心地に打ち込まれた杭“ダン木”に“ワサ”を掛けることで、これ以上引かれないようにします。こうすることで作戦を練り直し、態勢を立て直して反撃に転じます。

このように、作戦と体力、組織力が左右する勝負事であり、かつては“けんか綱”と呼ばれるほど、勝負への執着が過ぎる時代もありました。現在の運営においては、綱をつくるための7トン以上の藁（わら）を市内契約農家から手配するなどの苦労もありますが、若手で構成する実行委員会が設備の手配や、警察等各種団体との調整、広報など、無形民俗文化財の継承に奔走しています。

425年以上の間、先人たちにより継承された伝統ある「川内大綱引」をこれからの世代につなぎ、ふるさとの大切な行事として守り続けてまいります。

## 主催者メッセージ



川内大綱引保存会会長
**橋口 知章**さん

川内大綱引は400年以上の伝統をもつ勇壮な祭り。若者衆3000人以上が上方と下方に分かれて長さ365メートル、重さ7トンの大綱で綱引きを行います。特徴は大綱の両端（最後方）にこれ以上綱を引かれないようにワサという輪があること、相手の引き隊を妨害する押し隊があることです。大綱は当日朝6時から市民1500人のボランティアの協力で練り上げます。










## 開催DATA

| | |
|---|---|
| 自治体名 | 鹿児島県薩摩川内市 |
| 自治体人口 | 90,535人 ※令和6年12月末の住民基本台帳人口 |
| 主催団体 | 川内大綱引保存会 |
| 開催回数 | 425年目（令和6年開催時点） |
| 開催日 | 秋分の日の前日 |
| 開催場所 | 薩摩川内市西向田町、大小路町（国道3号） |
| 観客数 | 50,000人 |




## 評価のポイント

●昔遊びの一つを地元の達磨寺、聖徳太子の歴史をひもといて子どもたちに語り伝える、素朴な学びと遊び心にあふれた企画。オリジナリティに富んだ様々な趣向によって今後の成長が楽しみ。
●全国各地から参加者を集め、地域の認知度向上や歴史文化への理解を深める機会となっている。なじみ深い昔遊びで住民と参加者の交流が生まれ、今後さらなる発展と交流促進が期待できる。
●誰もが親しみを持って参加できる「だるまさんがころんだ」を全国大会として銘打つことで、地域の知名度アップに大きな効果が見込まれる。

**次回開催日程**

■開 催 日：2025年11月（詳細は未定）
■開催場所：達磨寺境内特設会場
■問い合わせ先
・団 体 名　王寺町地域交流課文化資源活用係
・住　　所　〒636-0013 奈良県王寺町元町1丁目9番28号
・電話番号　0745-72-6565（直通）　・URL　https://www.town.oji.nara.jp/kanko_bunka_event/event/darumasanngakoronda/index.html

ふるさとキラリ賞

第29回
ふるさとイベント大賞

選考委員会表彰

# 全国だるまさんがころんだ選手権大会

全国だるまさんがころんだ選手権大会は、「日本書紀」にも記される片岡飢人伝説をもとに開催しています。片岡飢人伝説とは、推古天皇21年（613年）に聖徳太子が道に臥せっていた飢人に出会い、助けた物語で、のちに飢人は達磨大師の化身だと考えられるようになりました。この伝説を由緒にしているのが奈良県王寺町の達磨寺です。達磨寺は、いわば達磨さんが"転んだ"（道に臥せっていた）聖地であり、ここを舞台とするのが全国だるまさんがころんだ選手権大会です。

選手権大会を始めるにあたっては、昔遊びの「だるまさんがころんだ」をオリジナル競技にしました。5人ずつで構成する2チームが競技コートに入り、鬼が「だるまさんがころんだ」を唱えている間に15メートル先のゴールを目指します。試合時間は2分間。1人がゴールするごとに20点を獲得し、鬼に動いているのが見つかると即刻アウト。どちらのチームが多く得点したかで勝敗を競います。

「だるまさんがころんだ」は、日本人なら誰もがやったことのある遊びで、世界各地にも似た遊びがあります。単純な競技なので、子どもから高齢の方まで幅広い方々が、家族で、友だちで、ご近所さんで、職場仲間でチームをつくって楽しんでくださっています。試合で鬼をする人も広く募集して、地域の方々が厳しい「鬼養成プログラム」を経て担っています。

大会は、聖徳太子1400年御遠忌にあたる2021年から、太子の「和の精神」と達磨の「七転八起」に基づき、コロナ禍に苦しむ人々が助け合い、再び立ち上がることを願って始めました。規模を拡大しつつ大会を重ね、縁起物のだるまで有名な群馬県高崎市でも同様の大会がおこなわれたり、名古屋大会も開催したりするなど全国化を図っています。王寺町の人はもちろん、奈良県内、全国各地、できれば世界各地の人びとが達磨寺に集い、町がいきいきして、町の歴史文化を知りながら王寺町のことが大好きになる。そんな大会をめざしています。

## 主催者メッセージ



王寺町の文化財を生かした観光拠点づくり協議会会長
**馬場 基**さん

全国だるまさんがころんだ選手権大会は呼び名が少し長いので、皆さん略して「だるころ」と呼んでいます。だるころは単純だけど奥が深い競技です。毎年、参加チームの人たちが熱戦を繰り広げてくださり、時には負けた悔しさで涙するほどです。この大会が達磨寺を舞台におこなわれるのも見所です。全国のみなさんの観戦・参戦をお待ちしています。

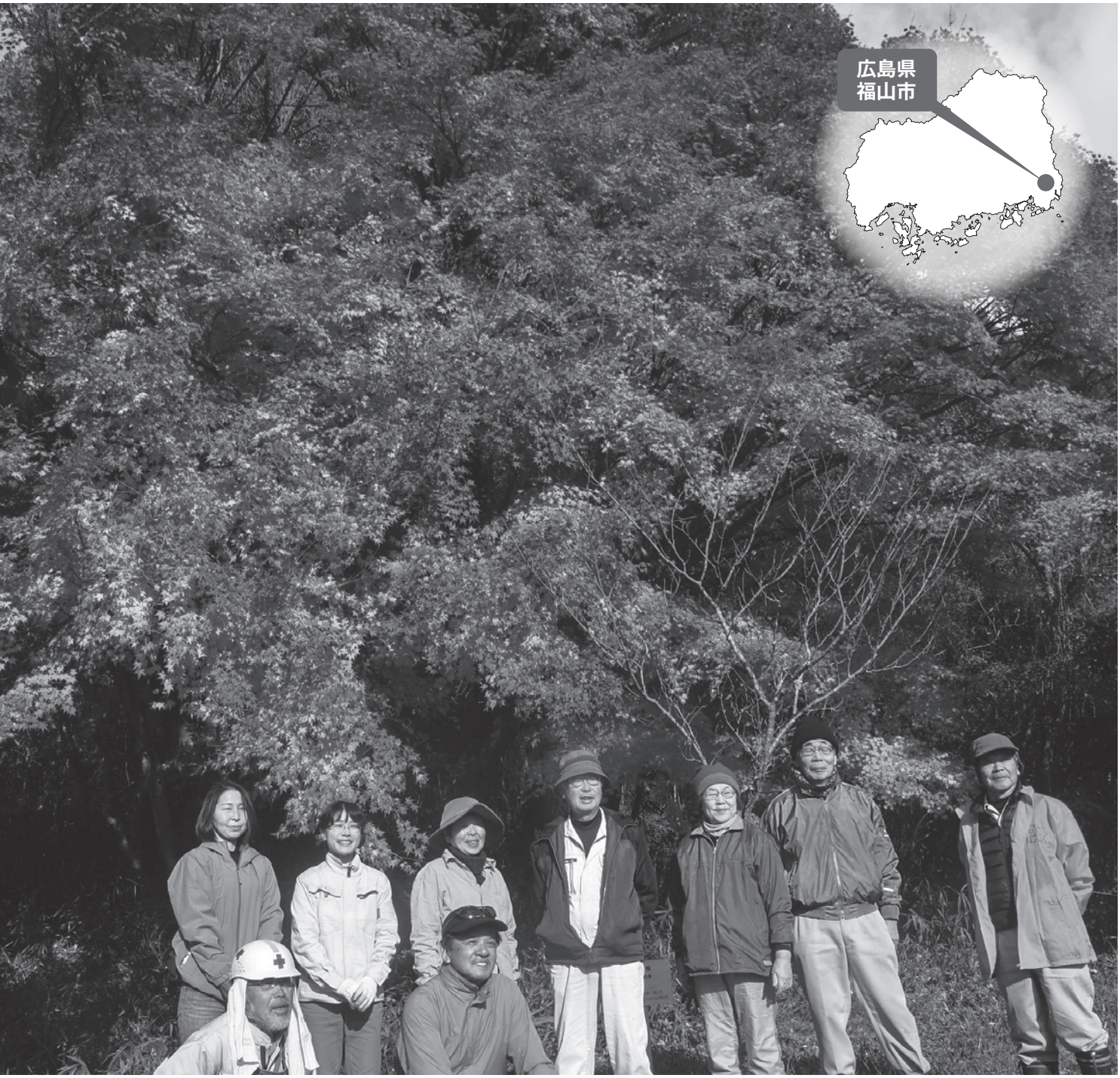






## 開催DATA

| | |
|---|---|
| 自治体名 | 奈良県王寺町 |
| 自治体人口 | 23,694人<br>※2024年12月末現在の住民基本台帳人口 |
| 主催団体 | 王寺町の文化財を生かした観光拠点づくり協議会 |
| 開催回数 | 4回 |
| 開催日 | 2024年11月16日（予選大会）、24日（決勝大会） |
| 開催場所 | 達磨寺境内特設会場（決勝大会） |
| 観客数 | 約1,000人 |




## 評価のポイント

●川への不法投棄防止に住民が始めた環境美化の取り組みが、地域の魅力アップに大きく貢献した事例。小学生をはじめ活動の輪が広がり、地域住民手づくりの素晴らしいイベントに成長している。
●砂留の保全とホタルを活用した環境整備を組み合わせ、川の水質改善という成果に至っているのが素晴らしい。会員や地元小学生の参加で、地域の誇りの醸成につながっていることも評価できる。
●自然環境や歴史的景観、生態系保護など継続的で時間のかかる環境保護活動を地域のこどもたちへの継承という大切な取り組みと併せた活動が素晴らしい。

**次回開催日程**

■開 催 日：2025年5月1日～ 2026年4月30日の毎月第3日曜日午前8時から10時半頃まで
■開催場所：福山市神辺町堂々川1番砂留から堂々川公園
■問い合わせ先
・団 体 名　堂々川ホタル同好会
・住　　所　〒720-2117　広島県福山市神辺町下御領1196-7
・電話番号　090-4800-6631　・URL　https://dodogawa.com

ふるさとキラリ賞

第29回
ふるさとイベント大賞

選考委員会表彰

# ホタルと花と砂留（すなどめ）と









堂々川ホタル同好会は堂々川中流一帯をホタル等多様な生き物のすむ環境として保全するとともに江戸時代に築造された砂留を保護する活動を通じて、人々との交流を図り、地区を明るくすることを目的としています。

同会の設立は「堂々川にホタルを飛ばそう」という掛け声のもと賛同者が集まり、活動を始めました。活動当初は砂留の石積は草木に覆われており、不法投棄物が散乱しており、川も汚れていましたが、同会の会員が中心となりボランティアや子どもたちとともに、清掃を行うことで、現在は水質調査できれいな川と判定されるほどの清流になっています。また、不法投棄をさせないために2008年から彼岸花の植栽を始めました。2010年からは毎年、地域の保育園児・小学生と協力して植えており、現在では広島県内有数の彼岸花の名所となっています。さらに、2023年には地域の小学生に協力してもらい、環境美化啓発の手描きポスター60枚を堂々川付近の道路に掲示し、不法投棄のさらなる削減に取り組んでいます。

地域にある資源として、堂々川流域の八つの砂留は地域的にも技術的にも貴重なものとして国の登録有形文化財に登録されています。清掃活動が文化財の保護や景観の向上につながっています。また、堂々川を中心に自然が回復し、さらに彼岸花の植栽を行ったことで、春には桜やツツジ、夏にはホタル、秋には彼岸花、冬には雪景色があり、季節を問わず楽しめる観光地となっており、現在では年間約1万人が訪れるまでになりました。

ホタルがすめる環境づくりや自然の整備などの創意工夫により、静かに自然を楽しめるイベントとして実施しています。地域の小学生を始め、多くのボランティアと協力をしながら、地域資源を守るために、熱心に取り組んでいます。地域内外の交流にもつながり、活力を生み出すイベントになっています。

## 主催者メッセージ



堂々川ホタル同好会副会長
**砂田 博史**さん

私たちは堂々川を不法投棄のできないほどのすてきな川とすべく「ホタルと花と砂留と」をモットーに活動しています。初夏に舞うホタル、初秋の川土手を染める約20色、20万株の彼岸花、国の登録有形文化財となっている砂留は堂々たる姿を見せてくれています。我々の日々の活動は、常に自然とイノシシとの闘いです。季節を感じることのできる場所、地域の皆の集える場所としての堂々川を整備していきます、これからもずっと。

## 開催DATA

| | |
|---|---|
| 自治体名 | 広島県福山市 |
| 自治体人口 | 455,028人<br>※2024年12月末の住民基本台帳人口 |
| 主催団体 | 堂々川ホタル同好会 |
| 開催回数 | 年12回 |
| 開催日 | 2023年5月1日～2024年4月30日の毎月第3日曜日午前8時から10時半頃まで |
| 開催場所 | 広島県福山市神辺町堂々川1番砂留から堂々川公園 |
| 観客数 | 年間約1万人 |




## 評価のポイント

●日本最古のため池を地域の宝物として幅広い年代の人々が守り、盛り立てている熱気が伝わる都市部では珍しいイベント。外国人観光客も興味を持つ可能性があり、ぜひＰＲを進めてほしい。
●市内外から参加する学生やボランティアが年々増加し、地域の垣根を超えた交流や連携が行われており、次世代へのつながりや郷土意識の高揚につながっている。
●こどもから小中高校生、近隣の大学生、そして大人まで、地域の様々な世代の人が楽しめる催し物の多彩さが魅力的で評価できる。

**令和7年開催日程**

■開 催 日：令和7年4月26、27日
■開催場所：狭山池、狭山池堤、狭山池博物館
■問い合わせ先
・団 体 名　狭山池まつり実行委員会
・住　　所　〒589-0021　大阪府大阪狭山市今熊1丁目540-3
・電話番号　072-360-3805　・URL　http://www.mydoo.net/ikematuri/

選考委員特別賞

第29回
ふるさとイベント大賞

選考委員会委員長表彰

# 狭山池まつり2024

大阪狭山市は、大阪府の東南部に位置し、まちの中心に位置する日本最古のため池である狭山池に代表される豊かな水と歴史と文化が息づく、水と緑豊かなまちです。

狭山池まつりが開催された契機となったのは、平成13年に完了した狭山池の平成の大改修です。10年以上の年月を要した改修工事の完成を祝うため、市民が中心となって「狭山池まつり実行委員会」が設立されました。現在は、市民や市民団体だけでなく高校生（狭山高校）や大学生（近畿大学・帝塚山学院大学・ホンダ学園）など様々な人々が関わり運営しています。大阪狭山市民だけでなく、市外からも多くの人たちが集う市内最大のイベントとなっています。

狭山池まつり2024では、「みらいを想い　あつまろう！」をテーマに、水環境について考えるきっかけとしての「手漕ぎボート体験」や、狭山高校の生徒をはじめとした軽音楽演奏・ダンス・太鼓披露など文化芸術の発表の場となった「龍神舞台」、夜には狭山池をLEDの灯りでつなぐ「灯火輪」など、様々な催しを行い、4.1万人もの人々が訪れました。

また、実行委員会は年に1度の祭りだけでなく、狭山池クリーンアクションという毎月1回の清掃活動を累計293回実施（令和6年12月現在）するなど、美しい狭山池を未来につなげるために市民・団体・学生などが協力しながら実施しており、狭山池の自然環境を保全する意識を高め、世代を超えた豊かな交流の場ともなっています。

今後とも人々の憩いの場・ふるさとの誇りである狭山池を中心に、豊かな地域の創造・人づくり・まちづくりに取り組みます。

## 主催者メッセージ



狭山池まつり実行委員会会長
**菊屋 英一**さん

「平成の大改修」で10年余の間、垣間見ることさえできなかった狭山池がよみがえった時、市民は大きな感動を覚え、この感動を形にすべく市民有志が集い「狭山池まつり」を開催しました。灯火輪、花火、龍神舞台、模擬店など、素晴らしい環境の中で、子どもから大人まで多くの市民が楽しく参加できる市内最大のイベントとして続いています。







### 開催DATA

| | |
|---|---|
| 自治体名 | 大阪府大阪狭山市 |
| 自治体人口 | 57,746人<br>※令和6年12月末現在の住民基本台帳人口 |
| 主催団体 | 狭山池まつり実行委員会 |
| 開催回数 | 21回 |
| 開催日 | 令和6年4月27、28日 |
| 開催場所 | 狭山池、狭山池堤、狭山池博物館 |
| 観客数 | 41,000人 |

# 「人材育成基本条例」制定を
## ―地域活性化センター人材育成エコシステム研究会提言―

人材の確保・育成が地方公共団体の大きな課題となる中、地域活性化センターは、地方公共団体における採用、研修などの人材育成システムが持続的・自律的に発展する方策を検討するため、2022年4月に「人材育成エコシステム研究会」を発足させ、2024年度末までに計9回の研究会を開催しました。

このたび、研究会での議論を踏まえ、人材育成基本条例の策定に向けた地方公共団体関係者への提言を以下の通り、取りまとめました。本提言が、地方公共団体の人材育成の取り組みの重要性についての気づきとなることを期待します。

なお、現時点で具体的に条例を策定している地方公共団体はなく、また、本提言において具体的な条文の例を示すものではありませんが、これを機に人材の確保・育成の重要性について議論が始まり、各地で条例策定の動きが出てくることを期待します。

当センターは、勉強会の開催など必要なサポートを行うこともできますので、気軽にご相談ください。

### 人材育成基本条例について

少子高齢化の進展、生産年齢人口の減少、災害の頻発など、自治体を取り巻く状況は厳しさを増している。そうした中で、地域の諸課題を解決し、地域住民が安心して幸せに暮らしていくための諸条件を確保しつつ、地域の魅力と持続可能性をいかに高めていけるかが、自治体に問われている。

その成否の大きなカギを握っているのが自治体職員である。彼（女）らが、「与えられた仕事をこなすこと」に終始せず、本気で地域および住民のことを考え、現状を把握し、問題発見・問題解決に真摯（しんし）に取り組み、結果を出せるかどうかが、その地域の将来を大きく左右するのである。

そのためには、職員たちの意識改革と能力向上が求められる。物事への積極的な向き合い方と覚悟、広い視野、論理的な思考・分析力、専門的な知識、柔軟な発想力、フットワークの軽さ、コミュニケーションスキル、多様な主体との連携ノウハウなど、今日の自治体職員が身に着けるべきものは少なくない。そうした意識や能力をすでに有している者を採用できればよいが、それもまた容易なことではない。自治体職員の人材育成が求められる所以（ゆえん）である。

ところが、現実には、多くの自治体において、人材育成は極めて不十分な状況にある。定員の制約もあり一人当たりの業務量が増大する中、仕事を教える方も教えられる方も多忙を極めていることから、OJT（オン・ザ・ジョブ・トレーニング）が十分に機能しなくなっている。Off-JTについても、研修に行かせるだけの余裕が組織にないとして後回しにされるきらいがある。

今や自治体は、職員にとって「成長」が難しい職場になってしまっているのである。労働力不足が顕在化し、職員の確保が容易ではないからこそ、一人ひとりの職員の力量を高めていかなければ立ち行かない状況であるにもかかわらず、である。

「人手不足だからこそ、人材育成を通じた自治体職員一人ひとりの力量アップが求められるが、人手不足だからこそ、それが困難になってしまっている」というジレンマ。このジレンマは、人材獲得を困難にしかねない。なぜなら、今の若者たちが就職先を選ぶ際に一番重視しているのは、「自らの成長を期待できる」

という点だからである（参照、リクルート就職未来研究所「就職プロセス調査」（２０２４年卒）「２０２３年12月１日時点　内定状況」）。

それだけではない。売り手市場で民間への転職等が容易になっていること、各自治体において人手不足が深刻化する中で他自治体への転職も増加していることから、自己都合で地方公務員を辞める者が増えている状況にある。２０１３年度に５７２７人であった自主退職者数（一般行政職）は、２０２２年度には１万２５０１人にまで増加しているのである（約２・２倍）。「成長を期待できる」職場でなければ、人材獲得どころか、人材流出に苦しまざるを得なくなる。それが今、自治体が置かれている現状なのである。

こうした危機的状況を乗り越えなければ、地域の未来はない。今こそ、各自治体は人材育成に本気で取り組まなければならない。人手不足、多忙さといったその時々の状況に左右されて取り組みが疎（おろそ）かになってしまうようでは人材育成に本気で取り組んでいるとは言えない。では具体的にどうすべきか？

結論から言えば、地域をより良くしていくための職員の「学び、成長する権利」を中核とした「人材育成基本条例」を制定し、それに基づき、「人材育成（都市）宣言」をし、そうした方針に沿った自治体運営の実現に取り組むことが必要なのではないだろうか。たとえば、「研修をしっかり受けられるぐらいの職員数を確保する」といったことが「方針に沿った自治体運営」の具体例である（参照、大杉覚「人材育成を優先した地方公務員制度の実現に向けて」『地方公務員月報』２０２３年７月号）。同条例の中で毎年度の長期研修の受講人数を「研修等定数」として明示的に示すことがその制度的な担保となりうる。また、研修だけでなく、人事配置（異動）、人事評価、処遇のあり方についても、同条例の趣旨に基づいて見直していくべきだろう。

もちろん、職員の「学び、成長する権利」を明記した条例を制定することは、容易ではないだろう。異論も当然ありうる。しかし、人材育成を実現するためには、そうした異論に対して丁寧に反論しつつ、自治体全体で人材育成の必要性に関する共通理解を形成していかなければならない。人材育成は、人間の体で言えば最も基礎的な健康づくりに当たるものであり、その必要性は誰しも否定しえないはずである。むしろ、人材育成基本条例の制定に取り組むことは、地方議員の方々はもとより、地域住民全体を巻き込んで、人材育成について真剣に考えるための契機となりうるはずである。人材育成に本気で取り組むためには、その試練に耐える覚悟が必要となる。

条例制定をめぐる議論を通じて、「なぜ職員だけに『学び、成長する権利』を認めるのか？」といった疑問が呈されるかもしれない。もっともな疑問である。先に、「職員の『学び、成長する権利』を中核とした」という表現を用いたのは、「必ずしも権利の享有主体を職員に限定する必要はない」というニュアンスを込めたかったからである。むしろ、「すべて国民は、法律の定めるところにより、その能力に応じて、ひとしく教育を受ける権利を有する」という日本国憲法26条の規定を前提とするならば、職員のみならず、議員を含むすべての地域住民が「学び、成長する権利」の享有主体となることこそが、望ましいとも言えよう。

たとえば、ＤＸ、デジタル化に関する研修の門戸を広く地域住民や議員の方々に開き、職員が彼（女）らと一緒に学び、一緒に成長するというようなあり方は十分に考えられるし、むしろ好ましいことであろう。

また、そうした場は、地域の人間同士のつながりを形成する場にもなりうる。人材育成は、単に一人ひとりの成長につながるだけでなく、つながりの形成を通じて、地域づくりにもつながりうるのである。

将来を担う人材の育成こそが地域づくりの基礎である。「人口減少」「人手不足」という厳しい現実を乗り越えるには、人材育成を通じて個々の力量を高め、そうした力を結集していくほかない。

多くの自治体関係者が本提案に賛同くださり、行動を共にしていただくことを期待したい。

一般財団法人地域活性化センター
理事長　林崎　理
一般財団法人地域活性化センター
人材育成エコシステム研究会
委員長　嶋田　暁文

【連絡先】
一般財団法人地域活性化センター
人材育成エコシステム研究会
事務局
電話03（５２０２）６１３２

移住・定住・交流推進支援事業

（茨城県下妻市）

# 子どもの遊び空間魅力化で地方創生

## ―「マルチスポーツPLAYパーク」常設化事業―



下妻市建設部都市整備課砂沼戦略推進室　係長
青木　大輔

### 住みやすさが魅力の下妻

茨城県南西部に位置する下妻市。東京から約60キロのところにある人口約4万1000人のコンパクトな街で、中心部に「砂沼（さぬま）」という周囲6キロの大きな農業用ため池があります。平坦で温暖で緑と水に恵まれ、自然と四季を感じる田舎の良さと、交通の便が良く買い物や教育、通勤に不自由しない都会の便利さのバランスが取れた住みやすさが魅力です。ロリータ青春コメディー映画「下妻物語（こく）」の舞台となり、市内には国蝶（ちょう）「オオムラサキ」の生息地があり保護活動をしていることから、イメージキャラクター「シモンちゃん」が誕生しました。

### 遊びの場提供で移住・定住促進

当市が、「子どもの遊び空間の魅力化をきっかけとした本質的地方創生を目指す『マルチスポーツPLAYパーク』常設化事業」の取り組みに至ったのは、生活スタイルの変化やコロナ禍などで運動量が低下した未来の地域を担う子どもたちのロコモティブシンドローム対策や、学力では測れない「目標に向かって頑張る力」「人とうまく関わる力」「感情のコントロール」など、日常生活や社会活動において重要とされる能力を伸ばすことを目標としたためです。事業には地域活性化センターの「移住・定住・交流推進支援事業」の助成も受けました。

産学官民が連携して子どもを中心とした遊びの場を提供し、専門知識を持ったプレイリーダーによる様々なスポーツを使った「運動あそび教室」で、子どもたちの潜在能力を引き出します。これにより未来の人材育成と交流促進を図り、高品質なスポーツ環境を街のソフトインフラとして常設することで、街の魅力や暮らしの質の向上を図り、移住・定住にもつなげることを目的としました。具体的には以下のように実施しました。

①子どもたちの生きる力をつくるため、遊びを通じて子どもたちの身体運動機能の発達、認知的な発達、情緒・社会性の発達を促すプログラムを提供しました。

②未来の地域の担い手である子どもたちにスポットを当て、地域のスポーツサービスプロバイダー、大学・高校、地域人材、専門家、行政など様々な主体が連携し、スポーツが本来持つ競技性以外の機能を生かし、子どもたちの心身の健康を促進し、非認知能力やライフスキルも高めるプログラムを提供しました。

③子どもたちの主体性や創造性を伸ばすプログラムを街のソフトインフラとして常設することで、未来を担う人材を育成することはもとより、高品質なスポーツ・教育環境により街の魅力度を高め、地域内外の人材交流を促進し、最終的に質を求めた移住・定住にもつなげる、本質的な地方創生実現に寄与する事業の展開を目指しました。

④本事業のプレイリーダーの知識を習得した方々（サブプレイリーダー）を市内に増やし、子どもたちの発育発達、本事業に次年度以降も支援していただける人材を育てる取り組みにも着手しました。

### ホンモノに触れる機会を提供

健康づくり事業を行う企業、（株）ルネサンスの協力のもと、オープニングイベントとして、サッカー元日本代表の永井雄一郎選手、近隣のつくばFCの女子選手をゲストに迎え、サッカーをベースにした運動遊

びイベントを実施しました。

毎週行う通常教室では、対象者を学校で部活動が本格化する前の未就学の5歳児から小学6年生とし、運動能力の差から幼児クラスと小学生クラスに分け、運動遊びを通じて運動機能向上のみならず非認知能力向上につながるプログラムを提供しました。回を重ねるごとに参加者の子どもたちの体力、動きに変化が表れ、積極的な仲間づくりや自発性の成長も見られました。月に1回、プロスポーツ選手をゲストとして招き、ホンモノに触れる機会を提供しました。プロの方々との触れ合いや直接指導に刺激を受ける子が多く、保護者からも大変好評な取り組みとなりました。通常教室に加え、親子イベントを3回実施しました。親子一緒に様々なスポーツを体験し、子どもと一緒に保護者も体を動かす楽しさを共感してもらう機会を提供しました。ここで覚えた動きを家庭でも活用することで、休日に家族が公園などで繰り返し体を動かすことができる狙いもありました。

## 延べ1200人以上が参加

2023年度の運動遊び教室の実績としては、毎週水曜日の放課後に通常教室を18回開催したほか、事業周知を兼ねたキックオフイベントや親子参加イベントなどを開き、延べ参加者数は1205名となりました。本市に隣接する4市町のうち、3市町からの参加もありました。

サービスプロバイダーとの連携強化により、サッカー、野球、バスケットボール、テニス、リズムトレーニング、スラックラインなど様々なスポーツの専門家をゲストとして迎えることで教室の内容を充実させることができました。

保護者とのコミュニケーションも大切にしたことで、プログラム終了後のアンケート結果では参加者すべての方から教室の内容、インストラクター・スタッフ対応に満足してもらえたほか、保護者からは、大人向けの教室も実施してほしいという声もいただきました。また本事業の認知向上施策として、SNSフォロワーを数十万人持つプロスポーツ選手に情報発信の協力をいただき、当プログラムや地域の魅力を発信する活動を行うことができました。

課題としては、予想以上に申込数が多く、小学生クラスはすぐに定員に達したため、希望する全ての方を受け入れることができませんでした。

## 子どもの〝第三の居場所〟に

今後の実施継続に向けては、参加希望者をできるだけ受け入れられるように実施回数を増やすなど新たな参加希望者を優先して受け入れられる仕組みを検討します。

また、事業を常態化するためには、参加費の有料化や企業版ふるさと納税の活用など、自治体予算に左右されず持続的に通年で実施できる仕組みを検討していく必要があると感じました。

今後も本事業を通じて、高品質なスポーツ・教育環境を充実させることで街の魅力を高め、地域内外の交流や、保護者や地域の方々に運動遊びの大切さの理解を深めてもらい、学校でも自宅でもない子どもの〝第三の居場所〟を地域の方々と創り上げることで、市の魅力向上と関係人口の創出や地域部活動の地域移行などとの連携も考えていきたいと思います。



オープニングイベント



プレイリーダーによる「運動あそび教室」

首長の思い
column



# 世界一健康づくりの楽しい室戸の創造へ挑戦

高知県室戸市長　植田　壮一郎

高知県室戸市は、四国の右下角（かど）っこ（四国最東南端）に位置します。ｉＰｈｏｎｅを横にして右下角っこが室戸岬です。テレビやパソコンや雑誌など四角いものを見ましたら右下角っこは、四国の室戸市だと思い出してください！　と至る所でアピールしています。台風銀座の名前で室戸の知名度はあるように思いますが、どこにあるかと尋ねてもほとんどの方が分からない実態への対応策です。

室戸市は逆三角形で、東西53・3キロの海岸線を有して、太平洋が広がる東海岸と土佐湾が広がる西海岸は、東に凸凹した山並みの海岸断層、西は台地を並べた海成段丘という対照的な造形であり、今なお大自然というアーティストが描き続けるジオパークを楽しむことができます。

昭和34年に5カ町村で合併した市で、総面積２４８・２平方キロ、合併時の人口は約３万３０００人、遠洋マグロ漁業で栄えた時代がありましたが、国際的規制や油の高騰などにより減船が続き衰退へ、比例して人口減少と少子高齢化が極めて顕著となり、現在は１万２０００人足らずの人口となっています。

特に高齢化率は52％、75歳以上の年齢割合が31％と超高齢社会になっていますが、都市部からお見えになるお客様に、日本の50年未来の高齢化社会にタイムスリップされましたが実感はありますか、とお尋ねしています。

令和５年度の人口形態は、出生数28人、死亡数３３１人、転入者数１６３人、転出者数３２６人で合計４６６人の減少、一方、移住者が95組１１１人あり、総合計３５５人が１年間で減少、移住対策で若干の歯止めにはなっているものの１万人を切るのも時間の問題となり大変厳しい状況です。

こうしたことから、移住対策や子育て支援対策は特化して強化をしておりますが、高齢者対策については、「室戸モデル」のような新たな取り組みが見いだせていません。

市長選挙の公約に掲げた「世界一健康づくりの楽しい室戸」の創造は、高齢化対策への一策として、また、全国で健康長寿県構想が推進される時代に、その健康づくりがどこよりも楽しく取り組める町にする事で、市民の健康づくりはもとより、国内外からも注目を浴びる「健康づくりが楽しめる室戸」にしようとの思いでした。

まずは、健康を推進する企業と協定を結び、運動プログラムや健康食メニューの開発、次にお笑い企業と連携して笑いや歌による健康づくり、次にｅスポーツの導入、美による健康づくりなどを推進しています。

こうした取り組みに合わせ、室戸市ウエルネスシティ基本構想（令和５年度から令和７年度）を策定しました。また、民間医療機関のご支援で室戸健康大学（６カ月間を１期とし月１回の講座を開催、年に２回の入学式と卒業式を実施）を開催しており、第28期をむかえています。

室戸市は、日本一早く海洋深層水が取水された地域ですが、海洋深層水を用いた温浴施設タラソテラピーセンターとも言える「シレストむろと」が心身を健康にしてくれます。また、海辺を歩くタラソテラピーロードのコースをいくつか設けてウオーキングを楽しめます。さらに、癒やし効果でも有名な備長炭は日本一の生産を誇ります。なによりも、空海が悟りを開き、その名も命名された聖地と伝えられており、悩みごとは不健康の要因になりますが、悟りを開く聖地で癒やしを楽しめるという地の利もあります。

近年、むろと廃校水族館が全国メディアに取り上げていただき、高知県内では有数の観光施設として評価されています。朝晩の食卓にのるアジやサバなど定置網漁業で毎朝獲れる多種多様な魚たちがプールで泳いでいますが、その姿を観（み）ると元気がみなぎる感動を覚えるようです。漁港の一角に整備したドルフィンセンターも子どもたちの人気の場になり、笑いが絶えません。

世界一にはまだまだですが、楽しい健康ツーリズムプログラムも考案中です。室戸市は健康づくりの楽しい源泉地だと言うしかない心境です。

四国で唯一のユネスコ世界ジオパークに認定された室戸市ですが、プレートテクトニクス論を実証して地球の生い立ちや大地の誕生を目の当たりにしますと、地球の健康づくりも楽しまないともったいないとジオパークガイド役も買って出ています。日本一の室戸岬灯台に立ちますとその地球を誰もが無料で体感できますが、一切の雑念が洗い流され真っさらな自分を取り戻せます。正しく、リセットの聖地です。

楽しい健康づくりの取り組みに終わりはありません。私はヤブ医者ですが、室戸市という自治体の健康づくりにも大きくメスを入れなければと気合だけは負けずに頑張っています。

読者の皆様に、楽しい健康づくり体験にｉＰｈｏｎｅの右下角っこにお越しになって頂けましたら幸いです。そして、健康づくりの楽しさを味わってみませんか！

手前みそですが…

大分県

豊後高田市 315

# いとおしく懐かしいおまち「豊後高田昭和の町」




■豊後高田昭和の町（商店街）
レトロな看板や建物が並ぶ街並みを散策すれば、昭和 30 年代の古き良き時代の懐かしい雰囲気に浸れます

豊後高田市は、大分県国東半島の北西部にあり、豊かな自然や歴史・文化に育まれ、山・里・海・温泉などの豊富な自然環境に恵まれたまちです。

昭和30年代当時の活気とにぎわいある商店街をそのまま現代に復活させ、ノスタルジックな雰囲気が漂う「豊後高田昭和の町」では、ボンネットバスも現役で走っています。

また、現存する九州最古の木造建築である国宝「富貴寺大堂」をはじめ、中世の仏教文化を肌で感じ取ることができる貴重な文化財が数多く点在しています。

さらに、花とアートの岬「長崎鼻」、日本の夕陽百選に選ばれた「真玉海岸」などの美しい景観と、良質な泉質が自慢の６カ所の温泉を総称した「くにさき六郷温泉」などの資源にも恵まれています。

近年では、映画「ナミヤ雑貨店の奇蹟」や「坂道のアポロン」のロケ地となるなど、昭和30年代をテーマにした「豊後高田昭和の町」が映画のロケ地としても全国的に脚光を浴びています。



■昭和の夢町三丁目館
昭和 30 ～ 40 年代の暮らしや教室を再現した体で感じる昭和体験施設。リアルな昭和の時代にタイムスリップ



■駄菓子屋の夢博物館
駄菓子屋のおもちゃの所蔵では日本一の館長が、30 万点を超える収蔵品の中からえりすぐりの 6 万点を公開



■長崎鼻
春は 2700 万本の菜の花、夏は 160 万本のひまわりが咲き誇ります。敷地内には、オノ・ヨーコ氏のアート作品も



■真玉海岸
遠浅の干潟の「しま模様」と、黄金に輝く水面が織りなす幻想的な姿が特徴。「日本の夕陽百選」にも選定



■粟嶋社
縁結びの神様で知られる粟嶋社。女性の願いなら、そのひとつは必ずかなえてくれるといわれています



■富貴寺大堂（国宝指定）
宇治平等院鳳凰堂、平泉中尊寺金色堂と並ぶ日本三阿弥陀堂のひとつ。現存する九州最古の木造建築物

地域づくり５月号

2025 年 5 月 1 日発行　編集・発行＝一般財団法人地域活性化センター
東京都中央区日本橋2-3-4 日本橋プラザビル 13 階 電話03-5202-6131(代)
https://www.jcrd.jp/　印刷・製本／株式会社太平印刷社

法律で許可された場合以外に本誌からの無断転載を禁止します
落丁・乱丁はお取り替えします。編集室（03-5202-6139）E-mail：hensyuu6139@jcrd.jp まで、ご連絡下さい。

地域活性化センターからのメールマガジン登録はこちら

地域づくり5月号（通巻431号）　令和7年5月1日　一般財団法人　地域活性化センター発行












# 宝くじは、みんなの暮らしに役立っています。

宝くじは、少子高齢化対策、災害対策、公園整備、教育及び社会福祉施設の建設改修などに使われています。
























一般財団法人 日本宝くじ協会は、宝くじに関する調査研究や公益法人等が行う社会に貢献する事業への助成を行っています。

一般財団法人
日本宝くじ協会
https://jla-takarakuji.or.jp/

2025
5
ISSN 1340-8917



# 第29回 ふるさとイベント大賞

# 地域づくり 特集編

目 次　表紙裏　第29回ふるさとイベント大賞表彰式・2025地方創生フォーラム in 東京を開催


| | |
|---|---|
| 大賞（内閣総理大臣賞） | 福知山イル未来と【京都府福知山市】… 2 |
| 最優秀賞（総務大臣表彰） | 真夏のとうもろこし巨大迷路ゴールドデント777WAKUYA2023【宮城県涌谷町】… 4 |
| 優秀賞 | カナガワ　リ・古典プロジェクト in 海老名【神奈川県】… 6<br>たけはら憧憬の路 ～町並み竹灯り～【広島県竹原市】… 8<br>川内大綱引【鹿児島県薩摩川内市】… 10 |
| ふるさとキラリ賞 | 全国だるまさんがころんだ選手権大会【奈良県王寺町】… 12<br>ホタルと花と砂留と【広島県福山市】… 14 |
| 選考委員特別賞 | 狭山池まつり2024【大阪府大阪狭山市】… 16 |

次点

岩見沢ねぶた祭2023【北海道岩見沢市】…… 18
おながわみなと祭り【宮城県女川町】…… 20
只見ふるさとの雪まつり【福島県只見町】…… 22
箕輪城まつり【群馬県高崎市】…… 24
第34回越後まつだい冬の陣【新潟県十日町市】…… 26
第39回夏祭り山形じゃんずら【長野県山形村】…… 28
下町芸術祭【兵庫県神戸市】…… 30
嬉野暮らし観光まちあるき【佐賀県嬉野市】…… 32
ジャパンデー、アメリカンデー【青森県三沢市】…… 19
第11回全国まるごとうどんEXPO2023 in 秋田・湯沢【秋田県湯沢市】… 21
城下町小幡さくら祭り「武者行列」【群馬県甘楽町】…… 23
ドリーム夜さ来い祭り【東京都】…… 25
しばた寺びらき【新潟県新発田市】…… 27
つちのこフェスタ【岐阜県東白川村】…… 29
矢掛の宿場まつり大名行列【岡山県矢掛町】…… 31
青島神社夏祭り　海を渡る祭礼【宮崎県宮崎市】…… 33


**お知らせ**　「地域づくり」はこれまで「本編」「特集編」の2冊を発行してきましたが、次号（6月号）から1冊に統合します。テーマを定めた「特集」を中心とした編集方針は変わらず、オールカラーで標準40ページとなります。引き続きご愛読のほど、お願い申し上げます。

2025年5月1日発行　編集・発行＝一般財団法人地域活性化センター　©2019 jcrd.jp

東京都中央区日本橋2-3-4 日本橋プラザビル13階 電話03-5202-6131（代）https://www.jcrd.jp/　印刷・製本／株式会社太平印刷社

本誌は、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです

# 第29回ふるさとイベント大賞表彰式・2025地方創生フォーラム in 東京を開催

地域活性化センターは、2025年2月20日(木)にルポール麹町で「第29回ふるさとイベント大賞表彰式」と「2025地方創生フォーラムin東京」を開催しました。当日は表彰式の様子や講師の講演などをユーチューブで同時配信し、多くの方にご視聴いただきました。

**■プログラム**

11：00～　第29回ふるさとイベント大賞表彰式

13：30～　2025地方創生フォーラムin東京

【テ　ー　マ】「地元の出会いは企業がつくる　オールニッポンの少子化対策とは」

【基 調 講 演】天野 馨南子 氏（株式会社ニッセイ基礎研究所 生活研究部人口動態シニアリサーチャー）

【事例発表①】清水 繁 氏（東京商工会議所 地域振興部部長）

【事例発表②】佐藤 修哉 氏（株式会社佐藤製作所 常務取締役）

【パネルディスカッション】

（モデレーター）　荒木 直美 氏（婚活コーディネーター）

（パ ネ リ ス ト）　清水 繁 氏、佐藤 修哉 氏、浦 亮治 氏（長崎県こども政策局局長）

（コメンテーター）　天野 馨南子 氏



表彰式の記念写真




地方創生フォーラム in 東京の様子



大賞を受賞した「福知山イル未来と」の皆さん

# 第29回ふるさとイベント大賞の概要

「ふるさとイベント大賞」は、全国各地で数多く開催されている地域の活力を生み出すイベントを表彰し、全国に向けて紹介することによって、ふるさとイベントのさらなる発展を応援することを目的に設けられた賞です。

今回で29回目を迎え、第28回までに、211の個性豊かなイベントを表彰しています。

今後も、ふるさとイベントの創造・発展を促すことで、地域固有の風土・伝統・暮らしを守るとともに、地域に対する愛着と誇りを育み、内外との交流につながる地域の活性化を目指しています。

## ●応募対象イベント

2023年7月1日から2024年6月30日までに市区町村（広域を含む）で開催されたイベント。

※オンライン開催も対象。また、規模の縮小や内容の変更などがある場合でも、イベントを継続することで、そのイベントが本来持つ意味を伝えようと創意工夫を凝らしているものも含む。

以下のいずれかに該当するイベントは対象外。

①直近の5回（第24～28回）に大賞、最優秀賞等各賞を受賞したイベント

②継続性がなく1回の開催のみで終了するイベント

## ●選考過程

イベント主催団体から、市区町村等を通じ、都道府県へ応募書類を提出していただきました。今回の応募総数は101件でした。

応募されたイベントについては、イベントプロデューサーや学識経験者等により構成される「第29回ふるさとイベント大賞選考委員会」において厳正な審査を行い、受賞イベントを決定しました。

なお、選考にあたり、右記の選考基準を基にイベント内容を総合的に判断しました。

## ●選考基準

| | 評価のポイント |
|---|---|
| 企画 | ・地域資源を積極的に活用している。<br>（地域資源：風土、産業、食文化、伝統文化、歴史、特産物、建築物・構造物など）<br>・独創性にあふれ、新たな地域の魅力を創り出している。<br>・多くの人を引き付ける魅力がある。<br>・魅力を増すための創意工夫が顕著である。 |
| 運営 | ・地域住民が積極的に参加している（参加することに誇りを持っている）。<br>・地域の内外を問わず、交流や連携が行われている。<br>・継続して開催されており（継続される見込みがあり）、将来の発展性が見られる。 |
| 効果 | ・地場産業の振興や観光客誘致など、経済的な波及効果がある。<br>（低予算でも波及効果が大きいなど）<br>・地域の知名度アップに貢献している。<br>・地域住民の郷土意識の高揚につながっている。<br>・伝統文化の継承や新しい文化の創造につながっている。 |

## 選考委員長の総評　北川 フラム氏（株式会社アートフロントギャラリー代表取締役／アートディレクター）




「ふるさとイベント大賞」第29回の今回は、古くからの地域資源を契機にした優れたイベントが多いのが特徴でした。

「福知山イル未来と」は福知山城の夜を、「カナガワ　リ・古典プロジェクトin海老名」は県ゆかりの伝統文化を新しい発想で活用し、「たけはら憧憬の路～町並み竹灯り～」はタイトルどおりの内容で、福山市の「ホタルと花と砂留と」は堂々川という大切な川とその保全のための「砂留」をテーマにしており、また「川内大綱引」に至っては戦国時代から425年も続いている国の無形文化遺産に指定されている行事です。「狭山池祭り2024」は行基、重源以来の大切なため池を寿（ことほ）ぐお祭りで、これも日本列島に特徴的な土木インフラをテーマにしています。宮城県涌谷町の「真夏のとうもろこし巨大迷路ゴールドデント777WAKUYA2023」や奈良県王寺町の「全国だるまさんがころんだ選手権大会」も土地に根ざしたもので、私たちのこの日本列島の固有の場を深く掘り考えてきたものが大切にされていることをうれしく思いました。

**問い合わせ先**

一般財団法人　地域活性化センター
地域創生・情報広報グループ地域創生課

〒103-0027 東京都中央区日本橋2-3-4
日本橋プラザビル13階

TEL 03-5202-6136　FAX 03-5202-0755
E-mail：event@jcrd.jp　HP：https://www.jcrd.jp/



**大賞　内閣総理大臣賞**

**福知山イル未来と**

【開催場所】京都府福知山市・福知山城を中心とした城下町エリア




## 評価のポイント

●地域資源である「福知山城」を、光のプロジェクトだけでなく多様な形で活用しているユニークなイベント。行政を巻き込んで発展している点も将来の可能性を感じる。
●地元アーティストや大学生といった若い世代の発想で作り上げたイベントで、個々の作品の完成度が高い。フォトスポットとしてインスタで拡散されるなどして、若い世代への訴求が期待できる。
●プロジェクトマッピングやホラーキャッスルなどイベントも多彩で、未来に向けて変容しながら続くイベントになるのではないか。

**次回開催日程**

■開 催 日：2025年秋
■開催場所：福知山城を中心とした城下町エリア
■問い合わせ先
・団 体 名　福知山イル未来と実行委員会
・住　　所　〒620-0036　京都府福知山市中ノ27（2025年の事務局が変更になる場合あり）
・電話番号　090-5667-6119

大賞

第29回
ふるさとイベント大賞

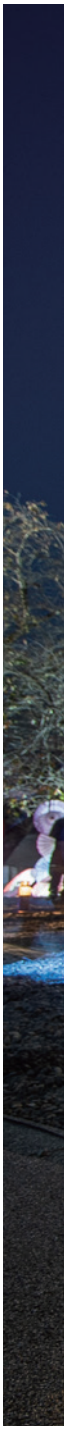
内閣総理大臣賞

# 福知山イル未来と









「福知山イル未来と」事業は、地域の誇れる資源を活用し魅力を高めるための事業を創り出すという想(おも)いをもって（一社）福知山青年会議所が主体となり立ち上がりました。開催場所となっている「福知山城」は地域のシンボルであり京都府内で唯一の天守閣を残す城であります。しかし、地域に住む住民にとって当たり前に存在する場所であり、普段の生活で近づく理由のない場所となり、平日や、夜間は観光客がいないと薄暗く近寄りがたい場所となっていました。

当初は青年会議所が主体となり、福知山城をよりカッコよくできる方法は何かという視点で、石垣のライトアップや天守閣のライトアップの変更や追加を行いながら、夜だからこそ見ることができるプロジェクションマッピングや光と影の演出、夜の雰囲気にマッチする音楽演出など様々な取り組みを巻き込んでいきました。青年会議所が主体だった事業も、福知山市や他団体、学生が実行委員会に加わるようになり、さらには広域観光圏としてのDMOや、京都府も実行委員会や広報協力として連携が広がり始めます。また2021年からは文化財×ナイトコンテンツ&デジタルコンテンツを現代アートとしての視点で事業構築し、文化財や地域活動の手法に新しい視点を加えた展開となりました。

2023年の事業では地元地域で活動される竹を活用したアーティストによる竹灯(あか)りや流木アート、おりんによる音楽アートなどを福知山城周辺で一堂に展示しました。にぎわいの演出には地元商工会議所青年部の力も借り、ハロウィンイベントやお城を初めて活用したお化け屋敷は地域内でも小中学生を中心に話題となり、多くの来場につながりました。一つの団体だけではなく、地域のシンボルを地域のみんなで活用していきたいという想いがつながり発展を続ける「福知山イル未来と」は、新しい挑戦と可能性を秘めた事業となっています。

## 主催者メッセージ

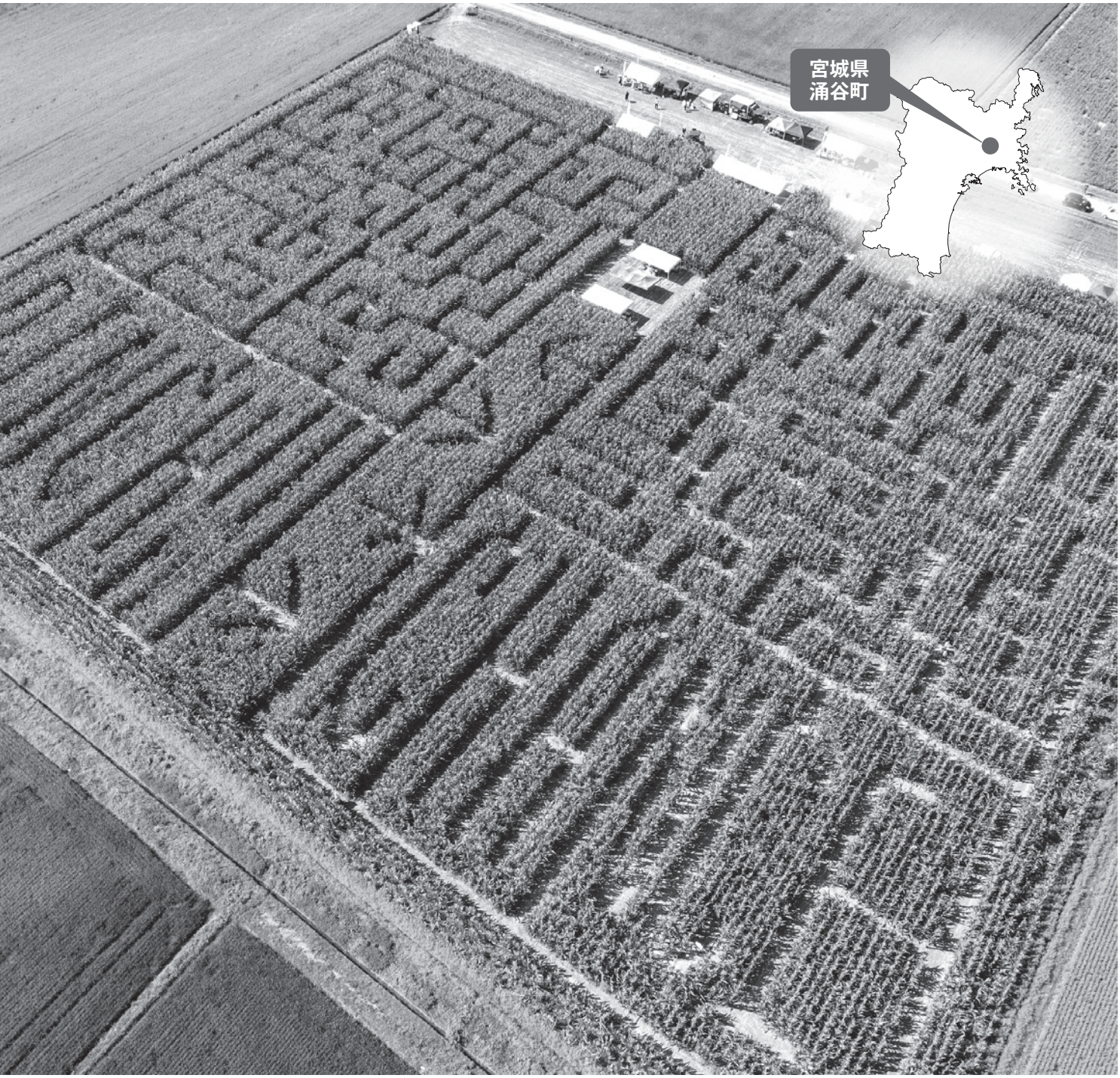


福知山城は、麓から見上げる姿や転用石の石垣から、当時の時代背景を垣間見ることができます。本事業を通じて一部のライトアップは常設化することができました。夜のライトアップによる石垣やお城の姿は必見です。お城を中心とした地域の挑戦が集まるまちづくりをイベントだけではなく、ぜひご注目下さい。

福知山イル未来と実行委員会
委員長
**足立 聖忠**さん

## 開催DATA

| | |
|---|---|
| 自治体名 | 京都府福知山市 |
| 自治体人口 | 74,513人<br>※2024年12月末現在の住民基本台帳人口 |
| 主催団体 | 福知山イル未来と実行委員会 |
| 開催回数 | 7回 |
| 開催日 | 9~11月の複数日 |
| 開催場所 | 福知山城を中心とした<br>城下町エリア |
| 観客数 | 18,501人（2023年） |




## 評価のポイント

●酪農家が発起人となり、広大な飼料用とうもろこし畑を活用して巨大迷路を造っているのが特長。酪農家による手作りのイベントが酪農家支援・牛乳消費拡大にもつながっている。
●運営費用を補助金に頼らずクラウドファンディング、寄付、参加料などで賄っている。関係者の強い熱意や参加者のニーズを捉えたイベントであることの表れであり、今後も期待できる。
●地場産品の販売等の経済効果を生み出したり、イベント運営に携わる地元の若者たちの交流機会につながったりと様々な波及効果を生み出している。

**次回開催日程**

■開 催 日：2025年8月2、3日
■開催場所：涌谷町涌谷字富沢地内のほ場
■問い合わせ先
・団 体 名　涌谷デントコーン迷路実行委員会
・住　　所　〒987-0151　宮城県涌谷町小塚字笠石山56番地（株式会社さいとう農場内）
・電話番号　090-8050-9786　・URL　https://www.facebook.com/golddent777wakuya/

最優秀賞

第29回
ふるさとイベント大賞

総務大臣表彰

# 真夏のとうもろこし 巨大迷路ゴールドデント 777WAKUYA2023

宮城県涌谷町は、749年（天平21年）に日本で初めて金を産出し、当時、平城京で聖武天皇によって造営が進められていた東大寺の大仏さまの鍍金用の金として献納し、その完成へと導いた地です。

イベント名は、日本初の産金地としての歴史と、迷路を形作る飼料用とうもろこしデントコーンの品種「ゴールドデント777」に由来するものです。

本イベントは、コロナ禍真っただ中の2021年に、もともとデントコーンを栽培していた酪農家を中心に、農家や地域おこし協力隊、行政職員の有志が実行委員会を発足し、始まりました。全国的にイベントが中止となり、子どもたちの思い出づくりの場が失われ続けている中、広大な農地であれば、感染症に気を遣わず、イベントを開催できるのではないかと考え、約1ヘクタールの田んぼにデントコーンを栽培し、約3メートルまで成長したデントコーン畑の中を切り開いて迷路を作り、イベント後には、デントコーンを収穫し、最終的には乳牛の飼料とする循環型農業を基本としたイベントを企画しました。

2021年の初開催では、コロナ禍の夏休みの思い出づくりに家族連れが1500人来場しました。2022年開催では、約1.8ヘクタールにスケールアップし、涌谷町にちなんだクイズラリーコースとゴールタイムを競い合うタイムアタックコースの2コースを整備し、2500人が来場。3回目となる2023年開催では、酪農家支援・牛乳消費拡大としてパック牛乳2000本を配布したほか、猛暑対策として迷路内に隠された宝探しをする肝試し要素も含んだナイト迷路を新たに企画したことで過去に類を見ない猛暑にもかかわらず2200人が来場し、コロナ禍をしばし忘れ、子どもも大人も熱中しました。

イベントの運営には、実行委員のほかに、町内の農業や商工業の担い手、地域のサークル・団体、行政の若手、高校生ボランティアが携わり、親睦を深める機会ともなっています。

コロナ禍を機に誕生したイベントですが、農作物を作るだけではない持続可能で循環型農業の新たな可能性に挑みつつ、涌谷町の新たな夏の風物詩となることを目指しています。

## 主催者メッセージ



日本で初めて金を産出した涌谷町の広大な農地を利用し、そこで栽培する高さ3メートルのデントコーン畑を切り開いた約1.8ヘクタールに及ぶ東北最大級の迷路イベントです。開催当初のマスク越しでも分かる、迷路のあちこちで咲き誇る夏の太陽にも負けないくらい黄金に輝く子どもたちの笑顔が印象的でした。

涌谷デントコーン迷路実行委員会
実行委員長
**齋藤 常浩**さん









### 開催DATA

| | |
|---|---|
| 自治体名 | 宮城県涌谷町 |
| 自治体人口 | 14,249人<br>※2024年12月末の住民基本台帳人口 |
| 主催団体 | 涌谷デントコーン迷路実行委員会 |
| 開催回数 | 4回<br>（2024年8月3、4日開催分含む） |
| 開催日 | 2023年7月29、30日 |
| 開催場所 | 涌谷町涌谷字富沢地内のほ場 |
| 観客数 | 約2,200人<br>（2024年開催は3,200人） |




## 評価のポイント

●地元高校生の創作ダンスと民俗芸能団体の共演により、地域住民や観光客に伝統文化を現代的な視点で再発信するなど、伝統文化の継承や新しい文化の創造につながっている。
●700年の歴史を持つ「山北のお峰入り」の維持継承が大切に引き継がれ、舞踊を通して老若男女の多彩な参加者の生き生きとした表情、姿がとても魅力的な取り組み。
●県西部の伝統的な地域資源を広く周知し、誘客のきっかけとする好事例。県内の小中高生や大学などへのPRも進めてほしい。

**次回開催日程**

■開 催 日：2025年12月（予定）
■開催場所：神奈川県横須賀市内（予定）
■問い合わせ先
・団 体 名　かながわの伝統文化の継承と創造プロジェクト実行委員会
・住　　所　〒231-8588　神奈川県横浜市中区日本大通１　神奈川県文化スポーツ観光局文化課内
・電話番号　045-285-0219　・URL　https://www.pref.kanagawa.jp/docs/yi4/rekoten/top.html

優秀賞

第29回
ふるさとイベント大賞

地域活性化センター会長表彰

# カナガワ リ・古典プロジェクト in 海老名

「カナガワ　リ・古典プロジェクト」は、神奈川県ゆかりの伝統文化を新しい発想で活用し、現代を生きる文化芸術として再（Re・リ）発信する取り組みとして、県、市町村、地域の企業や住民等との協働により、2013年度から県内各地で毎年イベントを開催しています。

2023年度は、神奈川県が誇る地域資源であり、風流踊としてユネスコ無形文化遺産に登録された民俗芸能「山北のお峰入り」を34年ぶりに地元以外の場所で大規模に一般公開しました。「お峰入り」とは、山中で修行を行うことを意味し、修験道の儀礼が芸能化したものと考えられています。イベントは、県央地域の主要駅である海老名駅の自由通路で太鼓や笛の音とともに古式ゆかしい行列を披露した後、ホールに会場を移し、海老名市の住民が演じる「大谷歌舞伎」、湯河原町の祭礼で舞われる「吉浜の鹿島踊」といった県内各地の民俗芸能と舞台で共演し、来場者に神奈川の芸能の多彩な魅力を一体的に発信しました。

また、こうした民俗芸能を披露するだけでなく、継承を担う地域住民が自ら講師となってワークショップ等を行い、子どもを中心とした伝統文化にあまり触れたことのない方々の興味関心を喚起したほか、舞台公演では地元高校生の創作ダンスも共演し、新たな文化を創造する試みとなりました。

今回は、100名以上の山北町民スタッフが遠方から参加するなど、県内各地の民俗芸能を担う住民が集合し、他団体や来場者と交流しましたが、大都市と山間部の両方を併せ持つ神奈川県において、本イベントは相互の交流による伝統文化の継承の取り組みを進める上での成功事例となり、翌年度以降の事業の企画に生かされています（2024年度は横浜市鶴見区と川崎市を会場に、県内にある総本山・大本山寺院の声明（しょうみょう）や川崎に伝わる民俗芸能、神奈川にゆかりのある世界各国の獅子舞等が登場するイベントを開催し、大きな盛り上がりを見せました）。

## 主催者メッセージ



かながわの伝統文化の継承と創造プロジェクト実行委員会
実行委員長
**小熊 誠**さん

神奈川県は、西に丹沢や箱根の山々、南に湘南の海、東に美しい夜景が広がる都市部など、エリアごとに異なる表情があり、見どころが豊富です。また、県内各地で受け継がれてきた歌や踊り、人形芝居などの多彩な芸能も楽しめます。神奈川県にお越しの際は、ぜひ人々の暮らしに息づく伝統文化に触れ、その魅力を堪能してください。







### 開催DATA

| | |
|---|---|
| 自治体名 | 神奈川県 |
| 自治体人口 | 9,208,688人<br>※2024年1月1日現在の住民基本台帳人口 |
| 主催団体 | かながわの伝統文化の継承と創造プロジェクト実行委員会 |
| 開催回数 | 11回（2023年度時点） |
| 開催日 | 2024年2月11日 |
| 開催場所 | 海老名市文化会館、海老名駅自由通路等 |
| 観客数 | 約2,800人 |




## 評価のポイント

●従来の竹灯りの魅力に加え、白壁へのプロジェクションマッピングやSNSを活用したフォトコンテストなど魅力の向上や集客の増加に向けた創意工夫に取り組んでいる。
●安芸の小京都と呼ばれる町並みの景観を、竹原の竹を用いた灯りで照らすという、地元の魅力を最大限に生かしたイベント。惹句（じゃっく）のとおり、夢のように美しいのだろうと想像する。
●伝建地区にも指定された町並み一帯に、竹灯りを展開して、竹原市ならではの幻想的な景観を生み出すことに成功している。

**次回開催日程**

■開 催 日：2025年10月25、26日
■開催場所：たけはら町並み保存地区
■問い合わせ先
・団 体 名　竹原市役所産業振興課商工観光振興係
・住　　所　〒725-8666　広島県竹原市中央五丁目6番28号
・電話番号　0846-22-7745

優秀賞

第29回
ふるさとイベント大賞

地域活性化センター会長表彰

# たけはら憧憬の路（しょうけいのみち）～町並み竹灯り（あかり）～

竹原市は、広島県沿岸部のほぼ中央に位置し、瀬戸内海の豊かな自然と温暖な気候に恵まれ、空港や新幹線、高速道路など主要な交通体系へのアクセスも良い住みやすいまちです。江戸時代から310年間塩づくりで栄え、その当時から今も残る歴史情緒あふれる古い建物群は、「たけはら町並み保存地区」と呼ばれ、国の重要伝統的建造物群保存地区にも選定されており、映画CM、アニメの舞台としてもたびたび使用されております。

竹原市を代表する「たけはら憧憬の路」は、この「たけはら町並み保存地区」で行う市木の竹を使った夜のイベントで、2003年（平成15年）に始まりました。「住んでよし・訪れてよし」のにぎわいのまちづくり・人づくりを推進することを目的に、竹原市や商工会議所をはじめ、地域の自治会や商店街など、13団体で実行委員会を構成し、地域一体となったイベント運営を行っております。

毎年10月の最終土曜・日曜日の2日間で開催するイベントには、県内外から約3万人が集まり、近年では遠く海外の方にも訪れていただいております。

イベントの魅力は何と言っても、江戸時代の面影を今も残す「たけはら町並み保存地区」が約5000本の竹筒からあふれるろうそくの灯りで幻想的に彩られる光景です。ノスタルジックな町並みと柔らかな竹灯りのコラボレーションは、筆舌に尽くし難い美しさです。

その他、地域の団体により製作された竹オブジェも趣向が凝らされており、各エリアでは雰囲気にあったライブイベントやおいしい地元グルメなども楽しめます。

お越しいただいた方々にイベントを楽しんでいただき、竹原市の魅力を最大限感じていただくため、実行委員会では会議を重ねて様々な企画を考えております。

保存地区全体が光のアートとなる2日間、心落ち着く幻想的な秋の夜長を竹原市で楽しんでみてはいかがでしょうか。

## 主催者メッセージ



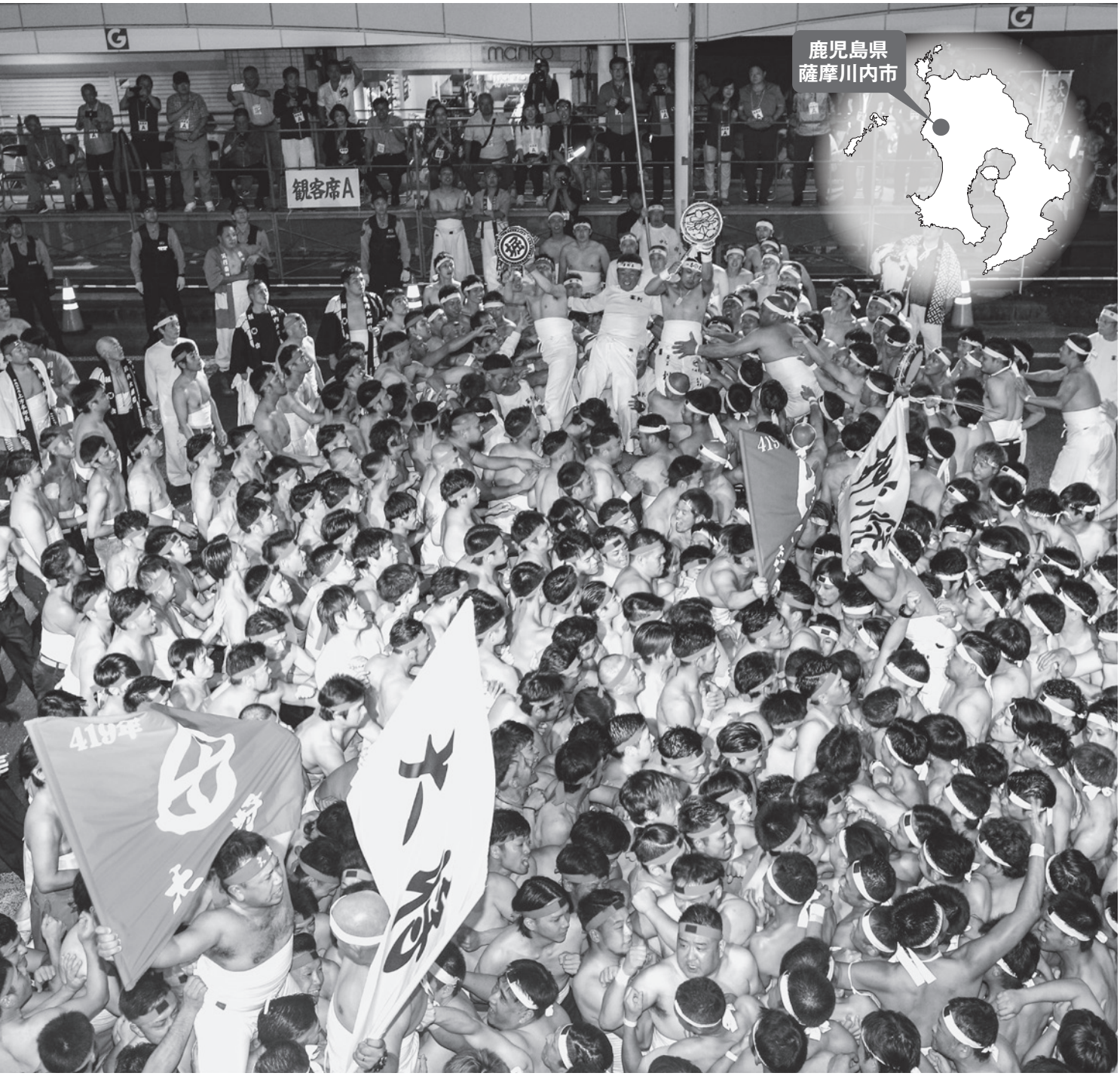
たけはら憧憬の路実行委員会
委員長・竹原市産業振興課長
**松岡 俊宏**さん

「たけはら憧憬の路」は、新型コロナウイルス感染症の影響で2年間の中止を余儀なくされましたが、2024年（令和6年）には、無事20回目の節目を迎えることができました。これもひとえに、市民と行政が一体となってイベントを開催してきたからであり、これからも地域一体となった運営をすることに重きを置き、竹原が誇るイベントとして後世に承継していきたいです。



### 開催DATA

| | |
|---|---|
| 自治体名 | 広島県竹原市 |
| 自治体人口 | 22,557人<br>※2024年12月末現在の住民基本台帳人口 |
| 主催団体 | たけはら憧憬の路実行委員会 |
| 開催回数 | 20回 |
| 開催日 | 毎年10月最終土曜、日曜日 |
| 開催場所 | たけはら町並み保存地区 |
| 観客数 | 25,000人 |




## 評価のポイント

●コロナ禍による中止期間中も綱練りのみ行うなど、技術や伝統を絶やさない取り組みが評価できる。また、幅広い世代が関わる機会を持つことができ、地域住民の郷土意識の高揚につながっている。
●子どもの頃から多くの地域住民が積極的に参加していることも評価できる。大綱引という強烈なインパクトを生かし、市外からも集客し、大きな経済効果を上げている。
●綱練りの技術の伝承はこの行事でも大切な取り組みであり、1500人の参加者数が大綱引の保存会の皆さんの熱量を感じさせる。

**次回開催日程**

■開 催 日：令和7年9月22日　※予定
■開催場所：薩摩川内市大小路地区（国道3号）※予定
■問い合わせ先
・団 体 名　川内大綱引保存会
・住　　所　〒895-0024　鹿児島県薩摩川内市鳥追町15
・電話番号　0996-21-1851　・Mail　ootsunahiki-hozonkai@kou.bbiq.jp

優秀賞

第29回
ふるさとイベント大賞

地域活性化センター会長表彰

# 川内大綱引

長い歴史を誇る「川内大綱引」の起源は、慶長年間（1596～1615年）にあると伝えられています。当時、薩摩藩の「郷中教育」において「8月15日夜に青年の監督の下に稚児一同綱引きを催す」と記されたことから、藩内各地で綱引きが広く行われました。

明治大正の頃には朝まで行われるほどで、時代に合わせた変化をしながら続けられてきました。大戦中の中止時期もありましたが、昭和22年に「平和は川内名物の大綱から」と復活させ、現在まで継承されています。

高度成長期には若者は県外に職を求め、主催する商店街にも人手不足等の影響が出始めました。昭和60年に川内大綱引を安定した運営にするために「川内大綱引保存会」を組織し、商工観光の振興や青少年の健全育成を目的としました。

「川内大綱引」には他に類を見ない、言葉で表すには難しい複雑なルールがあります。上方（赤）と下方（白）に分かれて作戦本部を設置する前から、両本部は人数集めに制限がない「引き隊」の引き手集めに奔走します。引き隊前の綱の中央部に配置される「押し隊」は、肉弾攻撃をもって敵軍の体制を崩すことを目的としています。

綱の両末端は“ワサ”という輪になっており、自軍の形勢が不利になった際、「ワサ係」が中心地に打ち込まれた杭“ダン木”に“ワサ”を掛けることで、これ以上引かれないようにします。こうすることで作戦を練り直し、態勢を立て直して反撃に転じます。

このように、作戦と体力、組織力が左右する勝負事であり、かつては“けんか綱”と呼ばれるほど、勝負への執着が過ぎる時代もありました。現在の運営においては、綱をつくるための7トン以上の藁（わら）を市内契約農家から手配するなどの苦労もありますが、若手で構成する実行委員会が設備の手配や、警察等各種団体との調整、広報など、無形民俗文化財の継承に奔走しています。

425年以上の間、先人たちにより継承された伝統ある「川内大綱引」をこれからの世代につなぎ、ふるさとの大切な行事として守り続けてまいります。

## 主催者メッセージ



川内大綱引保存会会長
**橋口 知章**さん

川内大綱引は400年以上の伝統をもつ勇壮な祭り。若者衆3000人以上が上方と下方に分かれて長さ365メートル、重さ7トンの大綱で綱引きを行います。特徴は大綱の両端（最後方）にこれ以上綱を引かれないようにワサという輪があること、相手の引き隊を妨害する押し隊があることです。大綱は当日朝6時から市民1500人のボランティアの協力で練り上げます。










## 開催DATA

| | |
|---|---|
| 自治体名 | 鹿児島県薩摩川内市 |
| 自治体人口 | 90,535人 ※令和6年12月末の住民基本台帳人口 |
| 主催団体 | 川内大綱引保存会 |
| 開催回数 | 425年目（令和6年開催時点） |
| 開催日 | 秋分の日の前日 |
| 開催場所 | 薩摩川内市西向田町、大小路町（国道3号） |
| 観客数 | 50,000人 |




## 評価のポイント

●昔遊びの一つを地元の達磨寺、聖徳太子の歴史をひもといて子どもたちに語り伝える、素朴な学びと遊び心にあふれた企画。オリジナリティに富んだ様々な趣向によって今後の成長が楽しみ。
●全国各地から参加者を集め、地域の認知度向上や歴史文化への理解を深める機会となっている。なじみ深い昔遊びで住民と参加者の交流が生まれ、今後さらなる発展と交流促進が期待できる。
●誰もが親しみを持って参加できる「だるまさんがころんだ」を全国大会として銘打つことで、地域の知名度アップに大きな効果が見込まれる。

**次回開催日程**

■開 催 日：2025年11月（詳細は未定）
■開催場所：達磨寺境内特設会場
■問い合わせ先
・団 体 名　王寺町地域交流課文化資源活用係
・住　　所　〒636-0013 奈良県王寺町元町1丁目9番28号
・電話番号　0745-72-6565（直通）　・URL　https://www.town.oji.nara.jp/kanko_bunka_event/event/darumasanngakoronda/index.html

ふるさとキラリ賞

第29回
ふるさとイベント大賞

選考委員会表彰

# 全国だるまさんがころんだ選手権大会

全国だるまさんがころんだ選手権大会は、「日本書紀」にも記される片岡飢人伝説をもとに開催しています。片岡飢人伝説とは、推古天皇21年（613年）に聖徳太子が道に臥せっていた飢人に出会い、助けた物語で、のちに飢人は達磨大師の化身だと考えられるようになりました。この伝説を由緒にしているのが奈良県王寺町の達磨寺です。達磨寺は、いわば達磨さんが"転んだ"（道に臥せっていた）聖地であり、ここを舞台とするのが全国だるまさんがころんだ選手権大会です。

選手権大会を始めるにあたっては、昔遊びの「だるまさんがころんだ」をオリジナル競技にしました。5人ずつで構成する2チームが競技コートに入り、鬼が「だるまさんがころんだ」を唱えている間に15メートル先のゴールを目指します。試合時間は2分間。1人がゴールするごとに20点を獲得し、鬼に動いているのが見つかると即刻アウト。どちらのチームが多く得点したかで勝敗を競います。

「だるまさんがころんだ」は、日本人なら誰もがやったことのある遊びで、世界各地にも似た遊びがあります。単純な競技なので、子どもから高齢の方まで幅広い方々が、家族で、友だちで、ご近所さんで、職場仲間でチームをつくって楽しんでくださっています。試合で鬼をする人も広く募集して、地域の方々が厳しい「鬼養成プログラム」を経て担っています。

大会は、聖徳太子1400年御遠忌にあたる2021年から、太子の「和の精神」と達磨の「七転八起」に基づき、コロナ禍に苦しむ人々が助け合い、再び立ち上がることを願って始めました。規模を拡大しつつ大会を重ね、縁起物のだるまで有名な群馬県高崎市でも同様の大会がおこなわれたり、名古屋大会も開催したりするなど全国化を図っています。王寺町の人はもちろん、奈良県内、全国各地、できれば世界各地の人びとが達磨寺に集い、町がいきいきして、町の歴史文化を知りながら王寺町のことが大好きになる。そんな大会をめざしています。

## 主催者メッセージ



王寺町の文化財を生かした観光拠点づくり協議会会長
**馬場 基**さん

全国だるまさんがころんだ選手権大会は呼び名が少し長いので、皆さん略して「だるころ」と呼んでいます。だるころは単純だけど奥が深い競技です。毎年、参加チームの人たちが熱戦を繰り広げてくださり、時には負けた悔しさで涙するほどです。この大会が達磨寺を舞台におこなわれるのも見所です。全国のみなさんの観戦・参戦をお待ちしています。

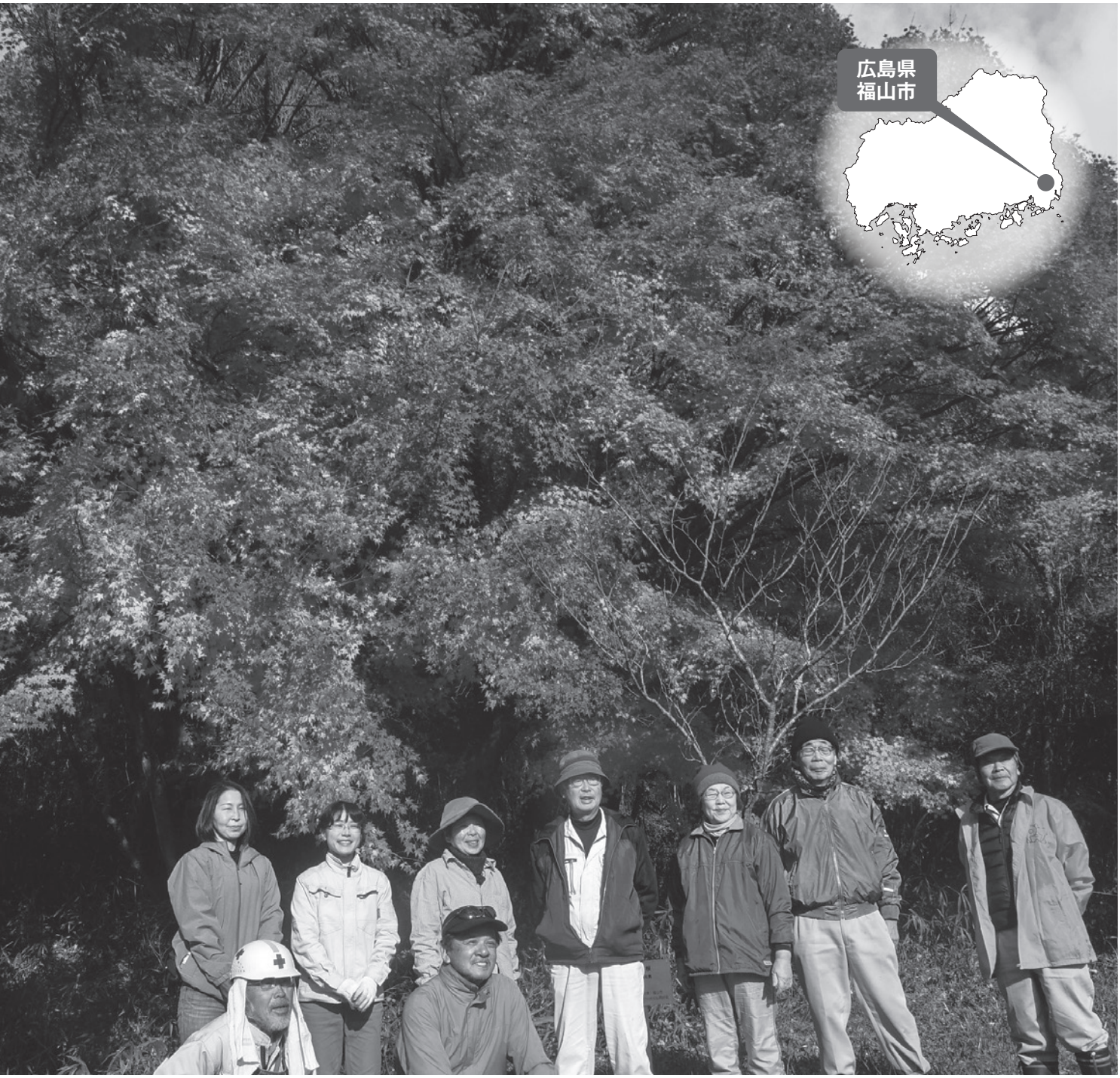






## 開催DATA

| | |
|---|---|
| 自治体名 | 奈良県王寺町 |
| 自治体人口 | 23,694人<br>※2024年12月末現在の住民基本台帳人口 |
| 主催団体 | 王寺町の文化財を生かした観光拠点づくり協議会 |
| 開催回数 | 4回 |
| 開催日 | 2024年11月16日（予選大会）、24日（決勝大会） |
| 開催場所 | 達磨寺境内特設会場（決勝大会） |
| 観客数 | 約1,000人 |




## 評価のポイント

●川への不法投棄防止に住民が始めた環境美化の取り組みが、地域の魅力アップに大きく貢献した事例。小学生をはじめ活動の輪が広がり、地域住民手づくりの素晴らしいイベントに成長している。
●砂留の保全とホタルを活用した環境整備を組み合わせ、川の水質改善という成果に至っているのが素晴らしい。会員や地元小学生の参加で、地域の誇りの醸成につながっていることも評価できる。
●自然環境や歴史的景観、生態系保護など継続的で時間のかかる環境保護活動を地域のこどもたちへの継承という大切な取り組みと併せた活動が素晴らしい。

**次回開催日程**

■開 催 日：2025年5月1日～ 2026年4月30日の毎月第3日曜日午前8時から10時半頃まで
■開催場所：福山市神辺町堂々川1番砂留から堂々川公園
■問い合わせ先
・団 体 名　堂々川ホタル同好会
・住　　所　〒720-2117　広島県福山市神辺町下御領1196-7
・電話番号　090-4800-6631　・URL　https://dodogawa.com

ふるさとキラリ賞

第29回
ふるさとイベント大賞

選考委員会表彰

# ホタルと花と砂留（すなどめ）と









堂々川ホタル同好会は堂々川中流一帯をホタル等多様な生き物のすむ環境として保全するとともに江戸時代に築造された砂留を保護する活動を通じて、人々との交流を図り、地区を明るくすることを目的としています。

同会の設立は「堂々川にホタルを飛ばそう」という掛け声のもと賛同者が集まり、活動を始めました。活動当初は砂留の石積は草木に覆われており、不法投棄物が散乱しており、川も汚れていましたが、同会の会員が中心となりボランティアや子どもたちとともに、清掃を行うことで、現在は水質調査できれいな川と判定されるほどの清流になっています。また、不法投棄をさせないために2008年から彼岸花の植栽を始めました。2010年からは毎年、地域の保育園児・小学生と協力して植えており、現在では広島県内有数の彼岸花の名所となっています。さらに、2023年には地域の小学生に協力してもらい、環境美化啓発の手描きポスター60枚を堂々川付近の道路に掲示し、不法投棄のさらなる削減に取り組んでいます。

地域にある資源として、堂々川流域の八つの砂留は地域的にも技術的にも貴重なものとして国の登録有形文化財に登録されています。清掃活動が文化財の保護や景観の向上につながっています。また、堂々川を中心に自然が回復し、さらに彼岸花の植栽を行ったことで、春には桜やツツジ、夏にはホタル、秋には彼岸花、冬には雪景色があり、季節を問わず楽しめる観光地となっており、現在では年間約1万人が訪れるまでになりました。

ホタルがすめる環境づくりや自然の整備などの創意工夫により、静かに自然を楽しめるイベントとして実施しています。地域の小学生を始め、多くのボランティアと協力をしながら、地域資源を守るために、熱心に取り組んでいます。地域内外の交流にもつながり、活力を生み出すイベントになっています。

## 主催者メッセージ



堂々川ホタル同好会副会長
**砂田 博史**さん

私たちは堂々川を不法投棄のできないほどのすてきな川とすべく「ホタルと花と砂留と」をモットーに活動しています。初夏に舞うホタル、初秋の川土手を染める約20色、20万株の彼岸花、国の登録有形文化財となっている砂留は堂々たる姿を見せてくれています。我々の日々の活動は、常に自然とイノシシとの闘いです。季節を感じることのできる場所、地域の皆の集える場所としての堂々川を整備していきます、これからもずっと。

## 開催DATA

| | |
|---|---|
| 自治体名 | 広島県福山市 |
| 自治体人口 | 455,028人<br>※2024年12月末の住民基本台帳人口 |
| 主催団体 | 堂々川ホタル同好会 |
| 開催回数 | 年12回 |
| 開催日 | 2023年5月1日～2024年4月30日の毎月第3日曜日午前8時から10時半頃まで |
| 開催場所 | 広島県福山市神辺町堂々川1番砂留から堂々川公園 |
| 観客数 | 年間約1万人 |




## 評価のポイント

●日本最古のため池を地域の宝物として幅広い年代の人々が守り、盛り立てている熱気が伝わる都市部では珍しいイベント。外国人観光客も興味を持つ可能性があり、ぜひＰＲを進めてほしい。
●市内外から参加する学生やボランティアが年々増加し、地域の垣根を超えた交流や連携が行われており、次世代へのつながりや郷土意識の高揚につながっている。
●こどもから小中高校生、近隣の大学生、そして大人まで、地域の様々な世代の人が楽しめる催し物の多彩さが魅力的で評価できる。

**令和7年開催日程**

■開 催 日：令和7年4月26、27日
■開催場所：狭山池、狭山池堤、狭山池博物館
■問い合わせ先
・団 体 名　狭山池まつり実行委員会
・住　　所　〒589-0021　大阪府大阪狭山市今熊1丁目540-3
・電話番号　072-360-3805　・URL　http://www.mydoo.net/ikematuri/

選考委員特別賞

第29回
ふるさとイベント大賞

選考委員会委員長表彰

# 狭山池まつり2024

大阪狭山市は、大阪府の東南部に位置し、まちの中心に位置する日本最古のため池である狭山池に代表される豊かな水と歴史と文化が息づく、水と緑豊かなまちです。

狭山池まつりが開催された契機となったのは、平成13年に完了した狭山池の平成の大改修です。10年以上の年月を要した改修工事の完成を祝うため、市民が中心となって「狭山池まつり実行委員会」が設立されました。現在は、市民や市民団体だけでなく高校生（狭山高校）や大学生（近畿大学・帝塚山学院大学・ホンダ学園）など様々な人々が関わり運営しています。大阪狭山市民だけでなく、市外からも多くの人たちが集う市内最大のイベントとなっています。

狭山池まつり2024では、「みらいを想い　あつまろう！」をテーマに、水環境について考えるきっかけとしての「手漕ぎボート体験」や、狭山高校の生徒をはじめとした軽音楽演奏・ダンス・太鼓披露など文化芸術の発表の場となった「龍神舞台」、夜には狭山池をLEDの灯りでつなぐ「灯火輪」など、様々な催しを行い、4.1万人もの人々が訪れました。

また、実行委員会は年に1度の祭りだけでなく、狭山池クリーンアクションという毎月1回の清掃活動を累計293回実施（令和6年12月現在）するなど、美しい狭山池を未来につなげるために市民・団体・学生などが協力しながら実施しており、狭山池の自然環境を保全する意識を高め、世代を超えた豊かな交流の場ともなっています。

今後とも人々の憩いの場・ふるさとの誇りである狭山池を中心に、豊かな地域の創造・人づくり・まちづくりに取り組みます。

## 主催者メッセージ



狭山池まつり実行委員会会長
**菊屋 英一**さん

「平成の大改修」で10年余の間、垣間見ることさえできなかった狭山池がよみがえった時、市民は大きな感動を覚え、この感動を形にすべく市民有志が集い「狭山池まつり」を開催しました。灯火輪、花火、龍神舞台、模擬店など、素晴らしい環境の中で、子どもから大人まで多くの市民が楽しく参加できる市内最大のイベントとして続いています。







### 開催DATA

| | |
|---|---|
| 自治体名 | 大阪府大阪狭山市 |
| 自治体人口 | 57,746人<br>※令和6年12月末現在の住民基本台帳人口 |
| 主催団体 | 狭山池まつり実行委員会 |
| 開催回数 | 21回 |
| 開催日 | 令和6年4月27、28日 |
| 開催場所 | 狭山池、狭山池堤、狭山池博物館 |
| 観客数 | 41,000人 |

次点

第29回
ふるさとイベント大賞

# 岩見沢ねぶた祭 2023

ねぶたと言えば青森？　そう思う方がほとんどですが、青森に負けない大迫力のねぶた祭が、実は北海道で行われています。

札幌駅から特急列車で25分の近さにある岩見沢市。この地で1990年代まで市民有志で行われていたねぶたの運行を、2021年に復活させたプロジェクトが今の岩見沢ねぶた祭の始まりでした。

夜空に灯（とも）る勇壮な武者人形と、太鼓や笛のお囃子（はやし）。そして、跳人（はねと）と呼ばれる踊り手が岩見沢駅隣のメイン会場を出発し、中心商店街を練り歩きます。跳人は誰でも自由に参加することができ、運行コース沿いでは居酒屋からスナックからお客さんが外に飛び出し、一緒に参加する場面も毎年見られます。岩見沢ねぶた祭は、ねぶたを見て楽しむのはもちろん、運行に加わって跳ねる参加型の祭でもあるのです。



会場には全道各地から30台を超えるキッチンカーが集結するグルメゾーンや音楽ステージのエリアも登場。夜のねぶた運行までの時間も楽しめるコンテンツもたくさんご用意しています。






祭の運営は初開催時から北海道教育大学の学生が中心となり、市民と一緒に協力して運営しています。2022年からは青森公立大学の学生や青森ねぶたを運営する団体のメンバーも岩見沢市に滞在し、祭運営やまちづくりにも関わっています。

また、祭のメインとなる「ねぶた（山車）」は、青森ねぶたの制作者から直接技術指導を受けて制作しています。制作期間は約4カ月。針金で形を作り、一枚一枚丁寧に紙を貼って作り上げていきます。ねぶたのテーマには岩見沢市の民話や歴史を取り上げ、ねぶたを通じた子どもたちへのふるさと教育にも寄与できるように活動を行っています。



2025年度で5回目の開催となる岩見沢ねぶた祭ですが、私たちはこの祭を100年続けていくことを目標にこれからも活動を続けてまいります。今年は8月30日（土）と31日（日）の2日間の開催です。今年の夏は、北海道岩見沢市でアツい夏を感じてみませんか。




## 次回開催日程

■開 催 日：2025年8月30、31日
■開催場所：駅東市民広場公園･イベントホール赤れんが･中心商店街
■問い合わせ先
・団 体 名：岩見沢ねぶたプロジェクト実行委員会
・住　　所：〒068-0024
北海道岩見沢市4条西4丁目11　IHKビル
岩見沢ねぶたプロジェクト実行委員会事務局
・電話番号：080-8203-5734（担当：藤本）
・Mail：info@iwamizawa-nebuta.com
・URL：https://www.iwamizawa-nebuta.com

## 開催DATA

| | |
|---|---|
| 自治体名 | 北海道岩見沢市 |
| 自治体人口 | 74,204人<br>※2024年12月末現在の住民基本台帳人口 |
| 主催団体 | 岩見沢ねぶたプロジェクト実行委員会 |
| 開催回数 | 4回 |
| 開催日 | 2023年8月26、27日 |
| 開催場所 | 駅東市民広場公園・イベントホール赤れんが・中心商店街 |
| 観客数 | 約13,500人 |

次点

第29回
ふるさとイベント大賞

# ジャパンデー、アメリカンデー

青森県の南東に位置する、太平洋と小川原湖に挟まれた三沢市には、米軍三沢基地があることから日米の文化が混ざり合った独自の文化が存在します。日米それぞれの文化を広く紹介し合い、人的、文化的交流を促進し、地域の活性化を図ることを目的とした「ジャパンデー」と「アメリカンデー」の両イベントは、切り離すことのできない二つで一つのイベントとして毎年行われてきました。多くの日米ボランティアスタッフの協力により、ジャパンデーは令和6年で36回目、アメリカンデーは35回目の開催を迎えることができました。

日本の伝統文化を市内の米国人に紹介し、和の魅力を知ってもらうジャパンデーでは、神楽をはじめ、ねぶた囃子（はやし）、和太鼓が披露され、日本文化体験ブースでは流鏑馬（やぶさめ）や琴、書道、日本酒の試飲などが人気を呼び、毎年この日は約2500人の米国人家族で終日にぎわいます。

ジャパンデーのお返しとして米国側が自国の文化を三沢市民や近隣市町村住民などに紹介するアメリカンデーは、市内の中心市街地、公会堂などを会場として行われ、米軍三沢基地入り口前には米国人によるアメリカンフード店舗が数多く立ち並び、本場のハンバーガーやホットドッグ、アメリカンケーキなどを楽しむことができるほか、公会堂では独立記念日や感謝祭などの米国文化を学ぶことができます。アメリカンデーのなかでもとりわけ人気なのが中心市街地で行われる「アメリカンパレード」で、全国から集結した150台を超えるハーレーダビッドソンなどのバイクやクラシックカーを先頭に、大型消防車などの米軍車両、米国空軍儀仗（ぎじょう）隊の行進など、このアメリカンパレードを見るために多くの方々が遠方よりお越しくださいます。

ジャパンデーとアメリカンデーは日米の友情を深めることのできるイベントとして地元に根付いていますが、もっとたくさんの人を惹（ひ）きつける魅力的なイベントとなるよう、様々な創意工夫を試みながら今後も開催していきます。













## 令和7年開催日程

■開 催 日：ジャパンデー：令和7年4月12日
　　アメリカンデー：令和7年6月中旬（予定）
■開催場所：ジャパンデー：米軍三沢基地内
　　アメリカンデー：市内中心市街地

問い合わせ先
・団 体 名：三沢国際クラブ
・住　　所：〒033-0037
　　青森県三沢市松園町3丁目7-11
・電話番号：0176-57-2700
・Mail：mic@misawajp.com
・URL：https://misawajp.com

## 開催DATA

| | |
|---|---|
| 自治体名 | 青森県三沢市 |
| 自治体人口 | 37,380人 ※令和6年12月末現在の住民基本台帳人口 |
| 主催団体 | 三沢国際クラブ |
| 開催回数 | ジャパンデー：36回、アメリカンデー：35回 |
| 開催日 | ジャパンデー：令和6年4月6日<br>アメリカンデー：令和6年6月23日 |
| 開催場所 | ジャパンデー：米軍三沢基地内<br>アメリカンデー：市内中心市街地 |
| 観客数 | 約６万人 |

次点

第29回
ふるさとイベント大賞

# おながわみなと祭り

おながわみなと祭りは、豊かな恵みをもたらす海への感謝、そして先人の知恵とたゆまぬ努力によって培われてきた「みなと女川」の発展、さらに基幹産業である水産業、水産加工業の発展と地域経済の活性化を図り、さらなる躍進を期すことを目的に昭和32年から開催されてきた。商工会、観光協会、町役場が主体となって運営しており、祭りの中で、海上獅子舞、まちなかパレード、ステージショー、海上花火大会等の様々なプログラムを実施している。各プログラムには多くの町民が積極的に参加しており、町を挙げての一大イベントとなっている。特に海上獅子舞は他にはない女川町だけの文化であるため、わざわざ町外から観覧に来る方も多い。

女川町では今から約170年前より「獅子振り」の文化があり、それは各行政区や実業団、保存会等によって継承されてきた。地域によって獅子頭の格好や踊り方、笛や太鼓のリズムに絶妙な違いがあり、それが団体ごとの特色として大切に受け継がれている。その獅子たちが年に一度、みなと祭りの日に一堂に会し、一斉に演舞する。美しいコバルトブルーの海を舞台に、色鮮やかな大漁旗を装飾した漁船に乗った獅子たちが港内一円を勇壮に舞う姿は圧巻の迫力である。地域に伝わる伝統芸能と港湾の地形を生かした企画であり、みなと祭りの中でも人気の高いプログラムとなっている。

小さい頃から参加し、各々の女川での活動の成果を披露したり、獅子振り等の伝統芸能に触れたりすることができるこの祭りは、町内の子どもたちにとっても、参加する意義の高いものとなっている。祭り翌日の清掃作業に自ら参加する子どもたちもおり、町のために大人に混ざって意欲的に活動する姿が印象的である。この祭りの各プログラムが子どもたちの郷土愛の育成につながっていると考えられる。













## 次回開催日程

■開 催 日：令和７年７月末
■開催場所：女川町海岸広場周辺
■問い合わせ先
・団 体 名：おながわ四季のまつり実行委員会
・住　　所：〒986-2265
　　宮城県女川町女川二丁目16番地5
・電話番号：0225-54-4328
・Mail：seapal@onagawa.org
・URL：https://onagawa-matsuri.jp/summer/

## 開催DATA

| | |
|---|---|
| 自治体名 | 宮城県女川町 |
| 自治体人口 | 5,810人<br>※令和6年12月末現在の住民基本台帳人口 |
| 主催団体 | おながわ四季のまつり実行委員会<br>（実施主体：おながわみなと祭り協賛会） |
| 開催回数 | 56回 |
| 開催日 | 令和5年7月30日 |
| 開催場所 | 女川町海岸広場周辺 |
| 観客数 | 18,000人 |

次点

第29回
ふるさとイベント大賞

# 第11回全国まるごとうどんEXPO 2023 in 秋田・湯沢

全国まるごとうどんEXPOは、2011年に発生した東日本大震災からの復興をテーマに、被災地へのエールの先駆けとなることを願い、地元企業や商工団体の主導で始まりました。

秋田を代表する食文化であり、日本三大うどんにも数えられる「稲庭うどん」。その産地である秋田県湯沢市で、コロナ禍による中断を挟みながらも、継続して開催されています。

11回目より、会場をそれまでの湯沢市中心市街地から稲庭うどん発祥の地である稲川地区に移し、本場の稲庭うどんをはじめ、会場に集まった全国ご当地うどんの味を求め、県内外から多くの来場者が訪れるイベントとなりました。その客層は、親子連れ、夫婦、友達同士、観光グループ、インバウンドなど多彩で、麺やつゆのおいしさを楽しむ光景が広がり、にぎわいを見せています。




また実行委員会では、来場者に一日をとおして楽しんでもらえるよう、物産ブースや多様なステージイベントを準備しており、地域の小中高生による吹奏楽の演奏、地域団体による太鼓の演技、西馬音内盆踊りや竿燈などの郷土芸能の披露などが行われています。多くの地元ボランティアも運営に参加し、地域総ぐるみで作り上げるイベントとして成長しています。






そして、このイベントが最大の盛り上がりを見せるのが、来場者投票によるグランプリの発表です。チケットを購入しうどんに舌鼓をうった後、チケット上部の投票券を気に入ったうどんに投票することができます。2日間のイベントの最後にその年のグランプリが発表され、出店者、来場者、地域住民などの大きな話題となっています。



令和6年度には、第12回全国まるごとうどんEXPOが引き続き稲川地区を会場に開催され、うどんの手綯いの実演や、花火と竿燈妙技の共演が行われるなど、その内容は年々パワーアップしています。

令和７年度も、さらに魅力を増した内容で開催を予定しています。全国各地からのご来場をお待ちしております。




## 次回開催日程

■開 催 日：令和7年10月4、5日
■開催場所：湯沢市役所稲川庁舎前駐車場
■問い合わせ先
・団 体 名：全国まるごとうどんEXPO実行委員会
・住　　所：〒012-0105
　　秋田県湯沢市川連町字平城下23-2
・電話番号：0183-42-2163
・Mail：yuzawakomati@skr-akita.or.jp
・URL：https://www.udonexpo.net/

## 開催DATA

| | |
|---|---|
| 自治体名 | 秋田県湯沢市 |
| 自治体人口 | 39,484人 ※令和6年12月末現在の住民基本台帳人口 |
| 主催団体 | 全国まるごとうどんEXPO実行委員会 |
| 開催回数 | 11回 |
| 開催日 | 令和5年9月30日、10月1日 |
| 開催場所 | 湯沢市役所稲川庁舎前駐車場 |
| 観客数 | 約7万人（2日間の延べ数） |

次点

第29回
ふるさとイベント大賞

# 只見ふるさとの雪まつり

日本有数の豪雪地帯である只見町では、冬期間は雪により閉鎖的となります。そのような中でも、雪を資源と考え、町民の娯楽や仕事を創出するとともに伝統や文化を継承し、活気ある町づくりを目指すことを目的として開催する冬の一大イベントです。

会場内には、メインステージを有する、高さ10メートルを超える大雪像を作成し、そこで郷土芸能発表やアーティストライブ、マジックショーなどを実施します。また、郷土のおいしい料理や伝統工芸品の展示販売、地酒と甘酒の振る舞いなどを楽しめる「ゆきんこ市」という露店が軒を連ね、地域内のグルメを楽しむことができます。

本雪まつりでは、雪に触れるゲームイベントとして、長靴飛ばしや雪玉ストラックアウトの実施のほか、自由に雪遊びを楽しめるコーナーがあり、見るだけでなく実際に雪に触れて遊ぶことができます。

夜は大雪像をスクリーンにプロジェクションマッピングを投影し、雪と光と音楽が融合した幻想的な世界で来場者を迎えます。2日間とも祭りのラストは祈願花火大会を実施し、お祝いや激励、追善供養など申し込み者の想(おも)いとしてメッセージとともに花火を打ち上げ真冬の夜空を彩ります。

企画提案から会場作成、雪像づくり、会場内の出店などすべてが地域住民の参画により町民が一丸となって実施しているイベントです。













## 次回開催日程

■開 催 日：2026年2月14、15日
■開催場所：只見線広場（JR只見駅前）
■問い合わせ先
・団 体 名：只見ふるさとの雪まつり実行委員会
（只見町交流推進課内）
・住　　所：〒968-0421
福島県只見町大字只見字町下2591-30
・電話番号：0241-82-5240
・Mail：kankou@town.tadami.lg.jp
・URL：https://tadamisnowfes.com/

## 開催DATA

| | |
|---|---|
| 自治体名 | 福島県只見町 |
| 自治体人口 | 3,690人<br>※2024年12月末現在の住民基本台帳人口 |
| 主催団体 | 只見ふるさとの雪まつり実行委員会 |
| 開催回数 | 52回 |
| 開催日 | 2025年2月8、9日（毎年2月第2土、日曜日） |
| 開催場所 | 只見線広場（JR只見駅前） |
| 観客数 | 16,000人 |

次点

第29回
ふるさとイベント大賞

# 城下町小幡さくら祭り「武者行列」

城下町小幡さくら祭り「武者行列」は、1615年（元和元年）、徳川家康より織田信長の次男信雄（のぶかつ）に小幡藩（上州小幡2万石）が与えられ、8代信邦（のぶくに）が1767年蟄居（ちっきょ）となるまでの152年にわたり小幡藩を統治したことに由来します。

桜吹雪が舞う中、馬上の大将とそれに続く織田隊が出陣し、城下町小幡を勇壮に練り歩き、歴史に香る街並みと鎧（よろい）・甲冑（かっちゅう）に身を固めた戦国武将たちが華やかな絵巻を繰り広げます。

今の町を担う行政区の区長等のシニア層から次代の町を担う小学生の男女まで、幅広い年代層の地域住民が甲冑に身をまとい、織田隊の武者として行列に参加しています。そして地域の中だけでなく一般参加武者を広く募り、県外はもちろんのこと、外国人武者も多数参加していただいています。多種多様な人々に武者行列に参加してもらうことで、甘楽町の歴史と文化に対する理解を深めてもらう良いきっかけ作りにもなっています。

武者行列は町の歴史的観光資源である国指定名勝楽山園（らくさん）を出発点とし、江戸時代の面影を残す中小路、武家屋敷、日本名水百選の「雄川堰（おがわぜき）」などを進み、神社で祈願式を行った後、行列はさらに織田宗家七代の墓まで進み、各墓石に戦勝報告を行い、お祭り会場に帰還してそこで凱旋式（がいせん）を執り行います。

また、凱旋式が行われる甘楽総合公園「お祭り広場」では、各種出店コーナーのほか、NHK大河ドラマで織田信雄公を演じた特別ゲストの浜野謙太さんによるステージイベントや火縄銃の実演等のアトラクション等が行われ、訪れた人を楽しませています。

甘楽町の最大イベントである城下町小幡さくら祭り「武者行列」は、昭和60年から開催しており、令和6年で37回目を迎えました。これからも多くの方に楽しんでいただけるよう開催を継続していければと考えています。













## 令和７年開催日程

■開 催 日：令和７年４月６日
■開催場所：甘楽総合公園（お祭り広場）
■問い合わせ先
・団 体 名：甘楽町
・住　　所：〒370-2292
群馬県甘楽町大字小幡161番地1
・電話番号：0274-64-8320
・Mail：kankou@town.kanra.lg.jp
・URL：https://www.town.kanra.lg.jp/

## 開催DATA

| | |
|---|---|
| 自治体名 | 群馬県甘楽町 |
| 自治体人口 | 12,368人 ※令和6年12月末現在の住民基本台帳人口 |
| 主催団体 | 群馬県甘楽町 |
| 開催回数 | 37回 |
| 開催日 | 令和6年3月31日 |
| 開催場所 | 甘楽総合公園（お祭り広場） |
| 観客数 | 30,000人 |

次点

第29回
ふるさとイベント大賞

# 箕輪城まつり

箕輪城は群馬県高崎市の北部、榛名山を見上げる丘陵上を中心に、北東と南西の平地部を含んだ戦国時代の平山城です。東西約500メートル、南北約1100メートル、面積約36ヘクタール（史跡面積約21ヘクタール）におよぶ西上野の中核的な城郭で、国の史跡に指定され、日本百名城にも選ばれています。

この箕輪城の本丸を主会場として開催される「箕輪城まつり」は、地域の誇りである「箕輪城」をPRするとともに、この地域に根付く文化の継承、発展を目的に開催され、令和6年10月に22回目の開催を迎えることができました。

箕輪城まつりは、地域住民が主体となって、創意工夫を凝らしながら「手作り」で開催しており、回を重ねるごとに活動に賛同する地域住民や団体、企業が参加し、今では地域一体となって開催するイベントになっています。

イベント内容は、子どもから大人まで年齢・性別を問わず、参加者が手作りの甲冑を着用して練り歩く「武者行列」、当時の合戦の様子を再現する「箕輪城攻防戦」のほか、地場産野菜等を販売する「箕輪城市」を開催しています。

長野氏と武田軍の攻防戦を講談師の進行によりテンポよく再現するなど、イベント内容にも工夫を凝らし、市内外からの誘客を図っています。特に箕輪城攻防戦は、誰もが参加でき、大砲（空砲）、火縄銃の音や和太鼓の演奏など、効果音も相まって非常に見ごたえのあるものになっています。

近年では戦国時代の武将やお城ブームにあわせ、PR動画を作成し、高崎駅前の大型ビジョンで放送するなど、積極的なPRを行ったところ、令和6年度は過去最大の4000人の来場者を迎えました。












## 次回開催日程

■開 催 日：令和7年10月26日（予定）
■開催場所：国指定史跡　箕輪城跡
■問い合わせ先
・団 体 名：高崎市箕郷支所地域振興課
・住　　所：〒370-3192
群馬県高崎市箕郷町西明屋702-4

## 開催DATA

| | |
|---|---|
| 自治体名 | 群馬県高崎市 |
| 自治体人口 | 365,972人<br>※令和6年12月末現在の住民基本台帳人口 |
| 主催団体 | 箕輪城まつり実行委員会 |
| 開催回数 | 22回 |
| 開催日 | 令和6年10月27日 |
| 開催場所 | 国指定史跡　箕輪城跡 |
| 観客数 | 4,000人 |

次点

第29回
ふるさとイベント大賞

# ドリーム夜さ来い祭り



性別・年齢・障害・国籍・文化を問わず誰もが参画できるユニバーサルな舞踏の祭典。2002年にわずか10人の都民らでお台場を拠点に創設し、特定の広告代理店やメディアに依存しない、東京都民・開催地周辺企業等による独自運営の祝祭として一貫して展開している。2007年から都共催催事になり、2014年に財団法人に組織移行。お台場の都心全景や東京駅前等の背景を織り込んだ会場で「東京の顔」となる祭りになった。さらに東京都の姉妹都市ニューヨーク市等での開催やオレンジリボン（子供虐待防止運動）の啓発活動などで、持続可能な東京の文化やグローバルな価値も有する稀有な祭りに進化した。コロナ禍でも全国に先駆けたVRライブ配信＆リアル無観客開催や、メタバース、4面LEDステージ等の最先端技術を駆使し、感染者0名で途切れることなく開催した。2024年の祭りではさらに皇居外苑も含めた地域の特性を最大限に生かしつつ、社会課題を解決する10歩先を行く祭りとして以下の新たな取り組みを展開した。






【空飛ぶ首都防災訓練】皇居外苑で史上初となる民間主導の民間ヘリコプター発着を伴う、「祭り開催中に首都直下型地震の発生を想定した」防災訓練を実施。次世代エアモビリティ活用を視野に入れた救助・物資輸送の実証運航としても成功した。都民等の防災意識と都心の空の新たな防災面での活用について社会受容性を高めた。

【お台場デジタルパレードステージ】プロジェクションマッピング技術を駆使したお台場エリア初のよさこい演舞とのコラボレーションを実施。デジタルと伝統が融合することで、新たな視覚体験で多くの観客を魅了した。「撮影有料桟敷席」も設置し、安心安全な観覧のための雑踏整理やインバウンドなどの観覧者のニーズにも応えた。

【遠隔観覧体験】2023年から史上初の東京駅前・皇居外苑前の行幸通りの丸の内会場でのドローン中継等のライブ配信を実施（司会はVtuber）。空飛ぶ首都防災訓練とも連動し、視聴者にも防災啓発の取り組みを共有した。






## 次回開催日程

■開 催 日：2025年11月2、3日
■開催場所：東京お台場（ゆりかもめ台場駅前ほか）・丸の内（東京駅前の行幸通り）等を予定
■問い合わせ先
・団 体 名：一般財団法人ドリーム夜さ来い祭りグローバル振興財団
・住　　所：東京都港区
・電話番号：03-5796-2550
・Mail：info@dreamyosacoy.jp
・URL：https://www.dreamyosacoy.jp/

## 開催DATA

| | |
|---|---|
| 自治体名 | 東京都 |
| 自治体人口 | 14,002,534人 ※2025年1月1日現在の住民基本台帳人口 |
| 主催団体 | 一般財団法人ドリーム夜さ来い祭りグローバル振興財団 |
| 開催回数 | 23回 |
| 開催日 | 2024年11月2、3日 |
| 開催場所 | 東京お台場（ゆりかもめ台場駅前含め5会場）・丸の内（東京駅前の行幸通り1会場）・皇居外苑1会場 |
| 観客数 | 約65万人（荒天のため。2023年は約100万人） |

次点

第29回
ふるさとイベント大賞

# 第34回 越後まつだい冬の陣

越後まつだい冬の陣は、「雪国に自信と誇りを持てるイベントを創ること」を目的に、豪雪をもたらす冬将軍に、上杉謙信にまつわる山城の歴史と雪国人の知恵と遊び心をもって立ち向かう「春を呼ぶ冬まつり」として企画。昭和63年から継続して34回目を実施した。

冬に3メートル以上が降り積もる豪雪を嘆くばかりでなく、逆転の発想で豪雪と山城の歴史を活用したイベントで、コンセプトは「豪雪をもたらす冬将軍を追い払い、温かい春を呼ぶ冬祭り」。城山の山頂にある越後松代城まで延長約3キロの雪上に障害物があり、これを乗り越え一番乗りを果たした者をその年の城主に認定する雪中鉄人レース「のっとれ！松代城」が祭りのメインとなる。会場の城下町では、雪国のグルメを集めた「食い倒れ横丁」が軒を連ね、「遊雪広場」では雪上で馬そり体験やスノーチューブに雪板など、戦国気分で雪国の遊びが堪能できるため、外国人にも人気が高まってきている。

首都圏でも雪を活用したPRに取り組んでいる。平成4年から継続して毎年1月には東京都世田谷区と連携し、「世田谷新年こども祭り」に雪を約30トン運び込み、約20メートルの「雪の滑り台」と「かまくら」体験を提供し、人気を博している。会場内では越後まつだい冬の陣の鎧武者によるミニイベントも行われ、毎年3万～4万人の来訪者でにぎわうまでになっている。「世田谷新年こどもまつり」に雪を30年以上継続的に運び込むことにより、首都圏での知名度向上と信頼関係が育まれ、相互交流が深まり移住する人も現れた。さらに耕作放棄された棚田を復田し、米作りに取り組む活動へ発展するなど、単なるイベント開催にとどまらず新たな都市と地方との関係性が生まれるまでになっている。













## 次回開催日程

■開 催 日：令和8年3月7、8日（予定）
■開催場所：松代総合体育館、グラウンド
■問い合わせ先
・団 体 名：越後まつだい冬の陣実行委員会
（越後松代幕府）
・住　　所：〒942-1592
新潟県十日町市松代3252番地1
（十日町市松代支所地域振興課内）
・電話番号：025-597-2220
・Mail：ms-chiiki@city.tokamachi.lg.jp
・URL：http://fuyunojin.matsudai.jp/

## 開催DATA

| | |
|---|---|
| 自治体名 | 新潟県十日町市 |
| 自治体人口 | 47,126人（松代地域2,539人）<br>※令和6年12月末現在の住民基本台帳人口 |
| 主催団体 | 越後まつだい冬の陣実行委員会（越後松代幕府） |
| 開催回数 | 34回 |
| 開催日 | 令和6年3月9、10日 |
| 開催場所 | 松代総合体育館、グラウンド |
| 観客数 | 約8,600～25,000人<br>（世田谷新年子どもまつりに雪のプレゼントは約38,000人） |

次点

第29回
ふるさとイベント大賞

# しばた寺びらき

新潟県北部に位置する新発田市。新発田藩の城下町として栄えた市街地には、新発田城をはじめとする歴史的建築物が数多く残っています。「城下町しばた」の魅力を、その重要な構成要素の一つである「お寺」を通じて再認識し、若い世代に伝えていきたいと考えています。「しばた寺びらき」を通じて、この町に暮らす人や訪れる人が新発田への意識を少しずつ変え、「城下町」に今も息づく歴史と文化を身近に感じながら、気持ちよく生活できるまちづくりを目指しています。

コロナ禍での2回の中止を経て、今年で10年目を迎えます。市内中心部の寺町かいわいにある13カ寺を会場に、「買う・食べる・体験する」が楽しめるマルシェを開催し、各お寺にさまざまなお店が出店します。

また、普段は入りづらいと感じるお寺をより身近に感じてもらえるよう、重要文化財に指定されている本堂や境内の見学案内を行い、各寺院で特色あるイベントを開催。座禅や写経体験に加え、新発田のお盆の風物詩であり、作り手や需要が減りつつある「朝顔ぼんぼり」づくりの体験、副住職としての務めの傍らギターの弾き語りをする僧侶による路上ライブ、お坊さんが道端で説法を行う「ミチバタ説法」など、多彩な催しを企画しています。

子どもを対象としたお寺の池でのザリガニ釣りや境内での竹馬遊びなど、子どもから年配の方まで、3世代が一日楽しめる内容となっています。

さらに、数年前からは「寺びらき」に合わせ、神社を会場とする「社びらき」、酒蔵での「蔵びらき」、大倉喜八郎が建てた迎賓館「蔵春閣」での「閣びらき」も同時開催され、新発田の町全体がにぎわう2日間となっています。

「しばた寺びらき」は、お寺の多い新発田だからこそ実現できる取り組みです。お寺と地域、お寺と若い世代との新しい関係を築く試みとして、今後も発展していきます。













## 次回開催日程

■開 催 日：2025年5月31日、6月1日
■開催場所：新潟県新発田市諏訪町2丁目・中央町2丁目（寺町通り）
■問い合わせ先
・団 体 名：しばた寺びらき実行委員会
・Mail：terabiraki@gmail.com
・URL：https://terabiraki.com/

## 開催DATA

| | |
|---|---|
| 自治体名 | 新潟県新発田市 |
| 自治体人口 | 90,230人 ※2024年12月末現在の住民基本台帳人口 |
| 主催団体 | しばた寺びらき実行委員会 |
| 開催回数 | 7回 |
| 開催日 | 2024年6月15、16日 |
| 開催場所 | 新発田市諏訪町2丁目・中央町2丁目（寺町通り） |
| 観客数 | 2日間で6,000人 |

次点

第29回
ふるさとイベント大賞

# 第39回夏祭り 山形じゃんずら

昭和59年から始まった盆踊りや花火、屋台等を楽しむ村の恒例行事です。コロナによる中止期間を経て、4年ぶりの実施となった令和5年度は、実行委員会組織の再編とともに若者ワーキンググループ「じゃんずらぶろじぇくと（通称じゃんぶろ）」が発足し、夏祭りを無理なく継続するための運営体制へと大きく改編しました。オリジナル団扇（うちわ）のデザインや村ゆかりのゲストを呼んだ音楽ステージ、未成年の主張ならぬ「村民の主張」といったプレイベントを企画し、若者視点のアイデアを多く取り入れました。

プレイベントでは、同じイラストが描かれた団扇を持つ人を探す「ペア探しゲーム」を考案。子どもを中心とした来場者間の交流を生み出したいと企画され、例年全戸配布だった団扇は当日分を除いて保育園と小中学校に配布するなど工夫しました。また、村民の主張は子どもを含む来場者がステージに立つ初めての試みであり、来場者参加型の企画として夏祭りへの期待感を高めることにつながりました。

当日は、子どもやその家族を中心に多様な年齢層の来場者がみられ、プログラム終了まで会場が一体となって交流することができました。当日配布分の団扇やゲームの景品も好評のうちに終了。伝統文化を継承しながらも、世代を越えて楽しめる夏祭りになったと感じています。また、若者世代が活躍できる新たな運営方法の契機となり、持続可能な夏祭りを実現するための一つの転機となりました。

プレイベントを含む夏祭りの運営にあたっては実行委員やじゃんぶろメンバー、運営スタッフ、ステージ出演者、屋台の出店、花火の寄付等様々な形で村内外から参画いただき実現することができました。ご協力いただいたすべての皆さまに、この場を借りて感謝を申し上げます。













## 次回開催日程

■開 催 日：令和7年８月中旬（予定）
■開催場所：山形村農業者トレーニングセンター
　　グラウンド（予定）
■問い合わせ先
・団 体 名：山形村教育委員会
・住　　所：〒390-1301
　　長野県山形村2040番地１
・電話番号：0263-98-3155

## 開催DATA

| | |
|---|---|
| 自治体名 | 長野県山形村 |
| 自治体人口 | 8,486人<br>※令和6年12月末現在の住民基本台帳人口 |
| 主催団体 | 夏祭り山形じゃんずら実行委員会 |
| 開催回数 | 39回 |
| 開催日 | 令和5年8月14日 |
| 開催場所 | 山形村農業者トレーニングセンター　グラウンド |
| 観客数 | 7,000人 |

次点

# 第29回 ふるさとイベント大賞

# つちのこフェスタ

つちのこフェスタは､幻の生物「つちのこ」の目撃情報が多く、全国でも珍しい、つちのこの資料館がある岐阜県東白川村で平成元年から毎年5月3日に開催される、つちのこを捜索するイベントです。

気温が上がる中、全国から衣装や装備を整えたハンターたちが集まり、つちのこを捜索します。参加者は、イベント会場で使えるパスポートを購入する人々や付き添いの家族を含め､村の人口を超える2500人以上に達し､普段は静かな村が熱気に包まれます。

イベントが始まった平成元年に懸賞金100万円が懸けられて以来、毎年懸賞金が増額され、令和6年には132万円に引き上げられ、現在もキャリーオーバーが続いています。

捜索だけでなく、イベント会場には地元の事業者による露店やキッチンカーが並び、全長170メートルになる屋台村が会場を盛り上げます。パスポートを購入すると、特産の東濃ひのきを使った巨大桧(かいさ)チップのプールでの宝探しや、1級河川白川でのマスつかみに参加することもできます。

会場にはひのきの温かみのある香りが広がり、白川で手づかみしたマスをその場で焼いて食べることもできて、田舎ならではの心休まる時間を過ごすことができます。

さらに、会場のステージでは地元の吹奏楽クラブや檜茶太鼓保存会の演奏、森林組合による丸太切り大会など、様々な団体による出し物が行われます。丸太切り大会には多くの参加希望者があり、毎年盛り上がりを見せています。

つちのこフェスタは、東白川村の観光と地域振興に大きく貢献しているイベントであり、今後も地域や関係団体と協力し、東白川村とつちのこフェスタを盛り上げていく予定です。












## 次回開催日程

■開 催 日：令和7年5月3日
■開催場所：岐阜県東白川村神土　中川原水辺公園
■問い合わせ先
・団 体 名：つちのこフェスタ実行委員会
・住　　所：〒509-1302
　　岐阜県東白川村神土548
・電話番号：0574-78-3111
・Mail：507chishin@vill.higashishirakawa.gifu.jp

## 開催DATA

| | |
|---|---|
| 自治体名 | 岐阜県東白川村 |
| 自治体人口 | 2,011人 ※令和6年12月末現在の住民基本台帳人口 |
| 主催団体 | つちのこフェスタ実行委員会 |
| 開催回数 | 32回 |
| 開催日 | 令和6年5月3日 |
| 開催場所 | 岐阜県東白川村神土　中川原水辺公園 |
| 観客数 | 2,500人 |

次点

第29回
ふるさとイベント大賞

# 下町芸術祭

下町芸術祭は、阪神・淡路大震災から20年たった2015年から地域の商店主や建築家、アーティスト、NPOが集まって実行委員会を組織し、新たなインフラを整備することではなく、被災地というキーワードから抜け出し、今地域が持っている魅力をアーティストの持つ独自の視点や作品を通して、地域住民や来街者に対して提示することを目的にこれまで5回開催してきました。

また､｢多文化共生｣をテーマの一つに掲げ、様々な面においてもジャンル・業種やコミュニティの垣根を越えて、地域が協力し開催してきました。期間中は神戸新長田に点在する古民家や福祉施設、町工場などアートに限定しない魅力的な場所を舞台に、現代アートやパフォーマンスの展示・公演を行います。また、「下町芸術大学」というラーニングプログラムも実施し、まち歩きのガイドツアーやアーティストトーク、地域の歴史にまつわるトークプログラムなどを通じて表現およびまちへの理解を深めていただけます。

そして2025年に6回目の開催を予定しています。ぜひ、アートとまちの魅力を体感しにお越しいただけますと幸いです。

【下町芸術祭のこれまで】

・2014年に区民有志が集まって「新長田アートコモンズ実行委員会」設立。
・2015年にプレイベント「モノホシザオギャラリー」を開催。また、長田区のアートマップを作成。秋には1回目となる「下町芸術祭」を開催。
・2017年に2回目の｢下町芸術祭～境界の民～｣を開催。
・2019年に3回目の「下町芸術祭2019」を開催。
・2021年に4回目の「下町芸術祭2021」を開催。
・2023年に5回目の「下町芸術祭2023　COMMONS HACK」を開催。
・2025年に6回目の「下町芸術祭」を開催予定。

※本祭は隔年開催。2016年、2018年、2022年はプレイベントも開催。
※写真は2023年開催の様子。












## 次回開催日程

■開 催 日：2025年秋ごろを予定
■開催場所：神戸新長田一帯
■問い合わせ先
・団 体 名：新長田アートコモンズ実行委員会
・住　　所：〒653-0043
兵庫県神戸市長田区駒ヶ林町2丁目4-1
・電話番号：080-4476-4066
・Mail：shinnagata.artcommons@gmail.com
・URL：https://shitamachi-artfes.studio.site/

## 開催DATA

| | |
|---|---|
| 自治体名 | 兵庫県神戸市 |
| 自治体人口 | 1,492,604人 ※2024年12月末現在の住民基本台帳人口 |
| 主催団体 | 新長田アートコモンズ実行委員会 |
| 開催回数 | 5回 |
| 開催日 | 秋ごろ |
| 開催場所 | 神戸新長田一帯 |
| 観客数 | 開催年により変動 |

次点

第29回
ふるさとイベント大賞

# 矢掛の宿場まつり大名行列

矢掛の宿場まつり大名行列は、毎年11月第2日曜日に開催される伝統的なイベントで、山陽道の宿場町であった矢掛町の歴史と文化を体験する貴重な催しです。この祭りは、江戸時代の雰囲気を再現し、当時の大名行列を模したパレードを中心に構成されています。

今年の大名行列では本陣当主を先頭に「先払」「大目付」「道中奉行」「鉄砲」「奴頭（やっこがしら）」「鉄箱（はさみばこ）」「毛槍（けやり）」「立傘」「近習侍」「殿様」「小姓」「腰元」「中間（ちゅうげん）」「近習侍」「奥方」「腰元」「姫君」「袋槍」「典医」「茶坊主」「家老」「近習侍」「勘定奉行」「湯茶箱」「武具奉行」「鉄砲（けんらん）」「毛槍」の順番に、総勢72名の豪華絢爛な行列が矢掛の商店街を彩りました。

また、矢掛の宿場まつりでは、他にも「飛脚駅伝」「備洲岡山城鉄砲隊」「ふるさと物産市」「お茶席」などの催しでイベントを盛り上げます。

ふるさと物産市ではさまざまなブースが出展され、地元の特産物や食べ物を楽しむことができます。様々なグルメを味わえる屋台などが並び、来場者を楽しませています。

お茶席では地元高校生の茶道部がおいしいお茶をたて、来場者をもてなし、備洲岡山城鉄砲隊が鉄砲での演舞で歴史的イベントに華を添えます。

近年では矢掛町とフレンドタウンシップ協定を結んだ沖縄県金武町の方々がエイサーを披露したり物産を出店したりと大変にぎやかなイベントとなっています。

令和7年度は矢掛の宿場まつり大名行列が第50回目になる記念すべき年でもあり、一層にぎやかに開催いたします。

矢掛の宿場まつり大名行列は、単なる観光イベントにとどまらず、地域と歴史への理解を深める貴重な機会でもあります。多くの人々が参加することで、地域の結束や文化の継承にも寄与する素晴らしい祭りです。このイベントを通じて、矢掛町の魅力を再発見し、多くの方々にその魅力を伝えています。












## 次回開催日程

■開 催 日：令和7年11月9日
■開催場所：矢掛商店街
■問い合わせ先
・団 体 名：矢掛の宿場まつり大名行列実行委員会事務局
　　備中西商工会
・住　　所：〒714-1202
　　岡山県矢掛町小林163-2
・電話番号：0866-82-0559
・Mail：biccyuunishi@okasci.or.jp
・URL：https://biccyuunishi.jp/

## 開催DATA

| | |
|---|---|
| 自治体名 | 岡山県矢掛町 |
| 自治体人口 | 13,101人<br>※令和6年12月末現在の住民基本台帳人口 |
| 主催団体 | 矢掛の宿場まつり大名行列実行委員会 |
| 開催回数 | 49回 |
| 開催日 | 令和6年11月10日 |
| 開催場所 | 矢掛商店街 |
| 観客数 | 25,000人 |

次点

第29回
ふるさとイベント大賞

# 嬉野暮らし観光 まちあるき



佐賀県嬉野市は、「嬉野温泉」「嬉野茶」、陶磁器の「肥前吉田焼」といった特産品を持ち、西九州最大級の温泉街として知られています。温泉街には土産店や特産品を扱う飲食店が並ぶ一方で、地元住民が日常的に利用する青果店や洋品店、駄菓子屋などもあり、観光客の滞在エリアと地元住民の居住エリアが混在しています。

この地域の魅力を、いわゆる観光スポットだけではなく、地元住民との交流や日常の暮らしにあると捉え、これを「暮らし観光」として発信しています。その一環として、観光客だけでなく、移住者や地元住民がともに地域の魅力を再発見し、交流を深める「まちあるき」活動を定期的に開催しています。この活動の目的は、普段の生活で見過ごしがちな地域資源を紹介し、地域住民との交流を通じて、地域の誇りや愛着を感じてもらうことです。

「暮らし観光まちあるき」では、地域の生業や、地域の商店、暮らしの風景（昔、洗濯で使われていた川、地元住民がよく買うまんじゅうなど）を、まちあるき体験を通じて紹介しています。さらに、新しくオープンした店や、店が担う地域での役割、地域の変遷についても触れることで、単なる観光地巡りにとどまらず、地域の変化とその背景を知ってもらうことを大切にしています。また参加者に移住希望者や起業希望者がいる場合は、今後の活動につながるよう必要な情報提供や人脈作りをサポートしています。






こういった活動により、移住者と地域住民との関係構築につながり、参加者の中には、訪れた商店のリピーターになったり、地元企業に就職したり、カフェを開業したりする事例も生まれています。また商店の店主や地域住民には、自らが自分たちの街の魅力を伝えることに対する理解が徐々に深まってきています。



この活動を運営するメンバーは、旅館の社長や元地域おこし協力隊、近隣市町で同様にまちあるきを行う印刷会社の社長らで、自らの地域がよりよくなるよう、まちあるきの案内人として取り組んでいます。また現在は、嬉野市から移住促進やシビックプライドの醸成を目的としたまちあるきイベントの事業を受託し、行政と連携しながら地域全体を盛り上げる活動も行いつつ、今後もイベントを継続していきます。




## 次回開催日程

■開 催 日：随時開催予定
■開催場所：嬉野市
■問い合わせ先
・団 体 名：嬉野暮らし観光まちあるき実行委員会
・Mail：ureshinokurashikankou@gmail.com
・URL：https://note.com/ure_machiaruki

## 開催DATA

| | |
|---|---|
| 自治体名 | 佐賀県嬉野市 |
| 自治体人口 | 24,442人 ※令和6年12月末現在の住民基本台帳人口 |
| 主催団体 | 嬉野暮らし観光まちあるき実行委員会 |
| 開催回数 | 7回 |
| 開催日 | 令和5年10月12日、11月30日、12月16日、令和6年1月20日、3月2日、4月18日、6月29日 |
| 開催場所 | 嬉野市 |
| 観客数 | 96人 |

次点

第29回
ふるさとイベント大賞

# 青島神社夏祭り
# 海を渡る祭礼

青島神社の祭礼は、豊漁、無病息災を願って旧暦の6月17、18日に夏祭が執り行われています。

お神輿（みこし）を漁船に乗せて島を1周することから、「海を渡る祭礼」とも呼ばれています。この海上渡御は、御祭神の古事を偲（しの）び、海積宮（わたつみのみや）に御祭神をお連れ申し上げ、御神慮をお慰めしたいという氏子漁民の発意で、昭和23年から始まりました。

お神輿を乗せた船「御座船」を先頭に、満艦飾の大漁旗などで飾った数十艘（そう）の漁船が列をなして進む様子はとても壮大で写真に収めようと遠方から訪れる方もいるほどです。

この祭りは、22、23歳の氏子青年が主催者となり、参加者を青島在住者に制限して行っていましたが、人口減少や高齢化等の影響で、担い手の不足が課題となっていました。

そのため、地元有志による実行委員会を立ち上げ、実行委員会に移住者も交えることで、伝統を継承しつつ移住者の視点での発想も融合させるなど、誰もが参加しやすい体制づくりに取り組み、令和5年7月に4年ぶりに開催したところです。

これからも、青島で生まれ育った者、青島の魅力に魅せられ移住してきた者、それぞれが地域愛を育み、地域活性化のため協力しながら、魅力ある祭りづくりに取り組んでいきます。












## 次回開催日程

■開 催 日：令和7年7月27日（予定）
■開催場所：宮崎市青島地区
■問い合わせ先
・団 体 名：2025年度「青島神社夏祭り　海を渡る祭礼」実行委員会
・住　　所：〒889-2164
宮崎県宮崎市大字折生迫6896番地3
・電話番号：090-6895-7341

## 開催DATA

| | |
|---|---|
| 自治体名 | 宮崎県宮崎市 |
| 自治体人口 | 3,276人（青島地区）<br>※令和6年12月末現在の住民基本台帳人口 |
| 主催団体 | 2023年度「青島神社夏祭り　海を渡る祭礼」実行委員会 |
| 開催回数 | 75回 |
| 開催日 | 令和5年7月30日 |
| 開催場所 | 宮崎市青島地区 |
| 観客数 | 300人 |

地域づくり5月号 特集編（通巻431号）第29回ふるさとイベント大賞 令和7年5月1日 一般財団法人 地域活性化センター発行

# 宝くじは、みんなの暮らしに役立っています。

宝くじは、少子高齢化対策、災害対策、公園整備、教育及び社会福祉施設の建設改修などに使われています。


消防団防災学習


宝くじ桜



移動採血車


宝くじドリームジャンボ絵本


一輪車


青色回転灯装備車


検診車


パブリックアート


滑り台広場




一般財団法人 日本宝くじ協会は、宝くじに関する調査研究や公益法人等が行う社会に貢献する事業への助成を行っています。

一般財団法人 日本宝くじ協会
https://jla-takarakuji.or.jp/